



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学



和歌山大学 南紀熊野サテライト 2017年度 事業総括書

2018年3月

和歌山大学 南紀熊野サテライト

はじめに

◆和歌山県内での活動エリアを拡大！東牟婁地域、みなべ町で高等教育機会を設置！

和歌山大学南紀熊野サテライトは、2005年4月に「地域型サテライト」として設置後13年が経過した。2017年度は開設からの取り組み成果から、金融機関や自治体の協力を得て、要望が高かった東牟婁地域での授業を開設することができた。また、みなべ町での寄附講義を新設するなど広域の和歌山県に於ける教育機会の機会格差を減らすため活動エリアを拡大した。地域と融合する和歌山大学として、今後の更なる活動を目指す契機となった。「地域型サテライト」として、地域と融合した高等教育機会を提供するために、多方面へアンケート調査（地域住民、受講者、自治体職員、教員、他大学）を実施。その結果から地域ニーズを取り上げた授業編成や開設時間を再検討して体系的な地域学の学習機会を継続設置した。また、地域学から郷土愛を育み、地域特有の資源を保全、活用する活動から持続可能な次代の観光経営のあり方を実践的に学ぶ場として観光塾も設置。地方創生、観光創生に向けて、自治体職員、観光商工業、経営者、地域住民、高校生等多数の参加者を得て地域で中核となる人材を育成している。また、みなべ町、田辺市にて認定された「世界農業遺産」の寄附講義を設置。大学生と社会人が同じ会場で学ぶなど、連携協議会の協力を得て、地域振興に資する多様で具体的な学習機会を設置できた。本報告書に於いて2017年度事業を総括する。

◆2017年度事業の特長・課題（※特長・課題とも絞り込むため5項目とする）

2017年度の南紀熊野サテライト事業の特長・課題を、箇条書きに纏める

【5つの特長】

①地域学に根ざした授業編成、多様な学習機会を設置（熊野郷土学、世界農業遺産、地域づくり戦略論）

→体系的な学部授業を継続設置。更に広域のニーズに応えるために東牟婁地域での授業、講座の設置。（授業2科目、公開講義2回、他2回/年）新宮信用金庫の社会貢献の一環として、授業会場を無償提供、広報や運営支援を頂くことで実現。新宮信用金庫、東牟婁振興局、新宮市周辺自治体等の協力を得て、周知広報を実施。熊野地域の郷土の自然、歴史、文化の独自性から持続可能な地域振興を学ぶ「熊野郷土学」は好調、地元高校生も年間22名受講。他、寄附講義「地域づくり戦略論」を継続設置。新規に「世界農業遺産」の寄附講義科目を設置。大学生と社会人が一緒に学んでいる。

②地域課題（地域の経験知）と、大学研究（専門知）とを繋げた地域貢献

→学内の地域研究の成果を基に南紀熊野サテライトの授業で科目化。地域での教育研究活動を学内外へ情報発信して相互理解を深めている。研究者と地域活動の実践者が交流する機会となっている。

③みらい戦略第三期アクションプランを運用

→現在までに実施した自治体、住民、利用者、教員アンケート及び、全国の拠点設置大学へのアンケート調査を元に、「みらい戦略第三期アクションプラン」策定、運用初年度。地域での更なる活動を目指す。

④自治体・教育委員会・地域との連携協働の推進

→和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会委員等の協力を得て、県内紀南地域での大学活動での住民や担当者からの情報収集と、地域課題解決に向けた地域教育研究の推進への活動支援をいただいている。

⑤学内外への広報戦略の拡充 ⇒【※掲載新聞、広報紙は資料集を参照】

→入試、紀南枠新設の掲示、学生制作広報紙の配架やデジタルサイネージ（映像表示装置）の継続設置。HP、SNSでの活動紹介の更新回数を増加。新聞、ラジオ等メディアへの情報提供。

【今後の課題】

- ①教育研究活動による地域発展モデルの構築と更なる連携推進で「知の循環」を目指す。
- ②学内外の支援組織体制の構築に向けて情報の共有と活用を推進。
- ③サテライトを拠点として、地域で活動する学生、同窓会組織、小中高大等の交流推進に貢献。
- ④学内外へ大学活動とサテライトの認知向上のための戦略的な広報活動

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2017年度

目 次

1、はじめに	
南紀熊野サテライト 2017年度の事業概要と課題	1
2、具体的活動成果・事業実施状況	
【1】 高等教育部門／主催講座関係	3
【2】 生涯学習部門／高大連携部門	18
【3】 地域研究／本学授業講義支援／学生、同窓会活動支援	19
【4】 地域連携・産学官連携部門／地域からの相談／広報活動	28
【5】 本学防災対策本部分室の活動	32
【6】 運営基盤の強化／視察受入等	35
3、あとかき	38
4、参考資料（ 広報チラシ一覧、新聞掲載資料一覧 ）	

【1】 高等教育部門／主催講座関係

1-1 高等教育（大学院・学部授業）関係

大学院受講者5科目延べ23名（修士課程無し）、学部受講者6科目延べ206名（大学生、高校連携含）
 合計229名受講。前年比110名増※備考：平成29年度南紀熊野サテライト修士課程研究指導申請無し
 ≪平成29年度 南紀熊野サテライト受講生申請状況一覧≫

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	修士課程	高校生	
大学院	前期	ジェントロジースポーツ入門 ～大人のスポーツの楽しみ方～	彦治、他3名	教育学部	4	0	/	4
		民法の現代的諸課題	吉田	経済学部	5	0		5
		意識の多様性について考える	澤田	観光学部	8	0		8
	後期	情報ネットワーク特殊問題	佐藤	経済学部	4	0		4
		紀伊半島の環境と災害	井伊、他4名	シス工学部	2	0		2
					合計			23

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	大学生	高校生	
学部	前期	地域暮らしの健康学 D ～よく生きるための「心のあり方」～	藤永、他6名	オムニバス	29	0	0	29
		熊野郷土学 A【新宮会場】 ～郷土学からの地域振興～	久富、他5名	オムニバス	32	0	17	49
	後期	地域暮らしの経営学 ～変化の時代を生き抜くために～	出口、他7名	オムニバス	20	4	0	24
		熊野郷土学 B【新宮会場】 ～郷土学からの地域振興～	此松、他8名	オムニバス	27	0	5	32
		地域づくり戦略論 C	藤田、他	観光学部 寄付講義	20	20	0	40
		世界農業遺産	養父、他5名	シス工学部 寄付講義	16	16	0	32
	※オムニバス（学部複合、での開催の意味）					合計		

総合計	229
-----	-----



大学院授業の様子（ビッグユー）



学部開放授業の様子（新宮信用金庫会場）新設

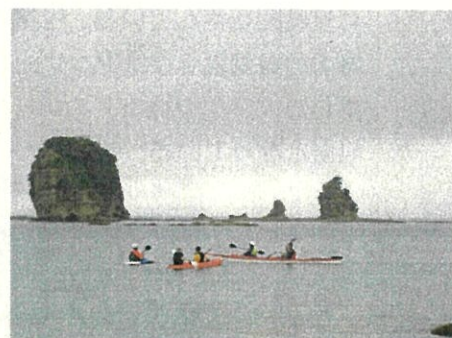
《実施概要》 ※特徴的なものを赤文字表記する。

①大学院科目の概要

《フィールドワークを取り入れた地域型の授業を実施》

教室での座学だけでなく、現地踏査を実施するなどして学習を深めた。

「紀伊半島の環境と災害」では、地形や気候などからなる地域特性により発生しやすい**自然災害**や**豊かな植生、温泉、鉱山などの恵み**などを取り上げ、授業と現場実習を通じて、温泉と鉱山との関係、温泉水、鉱山水からの排水による沿岸の海洋生物への影響を紹介した紀伊半島の地域特徴と環境について学び、環境に対応したこれからの生き方を考えた。また、「民法の現代的諸課題」では、現代の日本で生活するためには法律、とりわけ民法を知っておくことは非常に有益とし、授業では、**民法と、民法が抱える現代社会における種々の問題**を分かりやすく説明した。「意識の多様性について考える」では、国際人とは何かという問いに対して差別、多様性、文化の視点で考え、**差別の解消や多様性の促進を進める**についてどのようなことを知り進めていけばいいかについて理解した。「ジェロントロジースポーツ入門」では、フィールドワークを取り入れ、白浜町付近での**シーカヤックでの演習**を実施。生涯スポーツにおけるガイドに必要な要素や、近年の成人期以降のスポーツの多様な楽しみ方と実施による課題や可能性について理解を深めた。



大学院授業での現地踏査（白浜町 鉛山鉱山跡、白浜町 臨海での演習演習の様子）

②学部科目の概要

《総合的・体系的に学べる科目を設置、「世界農業遺産」寄附講義が開始！》

地域ニーズを反映した授業編成で**体系的な学びの機会**として設置。南紀熊野地域の諸課題に対する地域ニーズの高い内容について、学内研究の成果の地域還元として授業に編成して開講。

前期 2 科目、後期 3 科目の計 5 科目で編成。前期・後期と継続して受講した者へ「修了証」を発行するなど継続受講を推奨した取り組みも実施。体系立てた授業編成と修了証発行により、継続受講数が増加した。また、県教育委員会との連携により実施している「**高校生を対象とした大学授業の公開**」事業により、高校生の他、和歌山大学生、地域住民が地域の同じ教室で大学の講義を受ける機会となっている。

◆新宮信用金庫での新設授業「熊野郷土学 A」「熊野郷土学 B」&寄附講義「世界農業遺産」開始！

新宮信用金庫様の 5 階会議室会場で開講。定員 30 名のところ、社会人 32 名、高校生 17 名、合計 49 名の受講となった。「**熊野郷土学 A**」では、熊野地域の地質地形、気候、生物の自然環境などからなる周辺環境の学習から「郷土：熊野地域」を取り上げ、その**地域の独自性や多様性について総合的に解説**した。それらを活用することが地域の独自性をより高め、特徴的な地域資源を情報発信する意義や持続可能な地域経営について考える機会とした。後期開講の「**熊野郷土学 B**」では、その後半部分において、紀伊半島の地域資源の特徴から、それを取りまく**文化によって作り出された地域産業とその振興**を中心に挙げた。学生、自治体職員、地域づくり関係者、観光商工関係者、地域ガイド、シオパーク関係者、教育関係者、UI ターン者など、幅広い分野から多くの方が受講。「地域暮らしの健康学 C～心の健康

(メンタルヘルス)～」では、**対人心理学や学校現場での児童心理**を学んだ。



郷土学を学んだ後に、地域情報をインターネット上で編集、発信する技術を学んだ（新宮市会場）

◆寄附講義 1：「地域づくり戦略論」（公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団寄附講義）

5年間設置予定の寄附講義で、実践者を招き、地方創生における農山村の再生手法として注目を集める都市農村交流によるホスピタリティ人材の育成をテーマに掲げて理論と実践から農山村における地域づくり戦略を学んでいる。授業では、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響の教育効果も検証アンケート調査も実施されている。今年度3年目の実施となる。中間報告では、受講した**大学生の地域での新規就農や地域での就業に繋がっている**と報告があり優良な評価を得て、継続設置となっている。

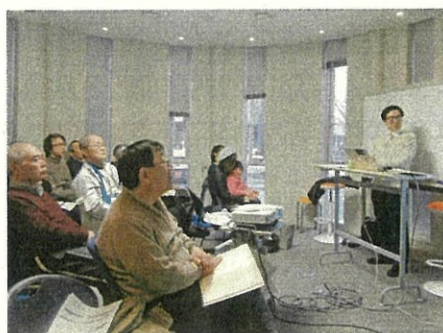


地域づくり戦略論の授業の様子（大学生20名、社会人20名）

継続受講者へ修了証授与式の様子

◆「地域暮らしの経営学」

どのような地域に暮らすにしても、**時代の変化に対応し、自主・自立の精神で絶えず自分磨き**をすることが求められる。そして地域が持続していくためには一人一人がこうした知識、スキル、ノウハウ、**地域に対して愛着**を持つことが重要となる。地域で自主・自立の精神で活躍している方々をゲストに招き、キャリアの形成と現在までをお話いただき、**生業づくりの語りの中から地域振興**のためのさまざまなヒントから地域で生き抜くための能力形成のあり方について解説した。この授業に、**南紀熊野観光塾生の**大竹氏をゲスト講師に招き講義いただいた。



「地域暮らしの経営学」で講義する南紀熊野観光塾生の大竹氏

◆「地域暮らしの健康学D」～よく生きるための「心のあり方」

現代社会におけるいくつかの「心の問題」について再検討したうえで、生涯をとおしてよく生きるための「心のあり方（マインドセット）」について考えた。扱ったテーマには、個人に関わるもの、家族に関わるもの、学校に関わるもの、広く社会に関わるものが含まれ、現代社会における多くの「心の問題」は、「心のあり方」、信念、価値観、判断基準、暗黙知、無意識の思い込みなどに関係すると思われ、こうした問題は、「心のあり方」を変えることによって未然に回避できる可能性があるとして授業ではテーマごとにその可能性を探った。

- ・「家族について考える」愛着という心の絆の大切さ、こどもへのしつけよりよい対応、親子の関係性
講師：教育学部 米澤好史先生
- ・「学校について考える」不登校・いじめ、子ども・保護者・教師に対する心理的支援、スクールカウンセリング、講師：教育学部 則定百合子先生
- ・「ジェンダーについて考える」ジェンダー（社会的性差）、LGBT～ダイバーシティ（社会における多様性）講師：経済学部 岡田真理子先生
- ・「依存症（アディクション）について考える」依存症とは、ネット・ゲーム依存、薬物・アルコール依存、ギャンブル依存、他者依存、講師：和歌山県臨床心理士会理事 小山秀之先生

◆寄附講義2：「世界農業遺産」（みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会寄附講義）

みなべ・田辺の梅システムが世界農業遺産に認定されたこともふまえ、世界農業遺産とは何か、当地の農業遺産のシステムと生態系の価値について一般的な生態学の知見も交えながら、座学と現地生態系演習により習得する。地元世界農業遺産協議会の全面的な支援のもと、将来的な**農業遺産のシステムを説明活用できる人材を育成**することを目的としている。みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会による寄附講座として実施。



農業遺産について説明する武内和彦・東京大学特任教授



同じ会場で学生15名、社会人15名が学習



石神梅林での踏査



講義をする養父先生、原先生



みなべ町森林組合松本さんの講義を受ける和歌山大学生 みなべ町清川 備長炭振興館



梅料理研究会の梅レシピの料理

1-2 主催講座・主催研修会関係

《和歌山県での実践的な観光の学びの講座、講演会を開催》

南紀熊野サテライト連携協議会主催の公開講座&受講生募集説明会を、夏季と冬季に実施した。東牟婁地域で授業開講することに併せて新宮信用金庫にてオープンキャンパスセミナーを実施した。また、和歌山大学観光学部の教員と連携し西牟婁地域（白浜町他）、東牟婁地域（古座川町）にて南紀熊野観光塾を開催。その他、授業終了後の夕方に若年層も参加できる「サイエンスカフェ」を館内や市街地のカフェで実施している。昨年度、好評を得た獅子舞カフェⅡでは、祭り本番の神社の境内にて、講師が解説し観光塾終了生がガイドとしてツアー企画するなど発展的な内容にて開催した。

①南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《H29年度後期 公開講座&受講生募集説明会》…田辺会場

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会

開催日：平成29年8月6日（日）13時30分～15時00分 参加約29名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

内容：記念講演1「みなべ・田辺の梅システム～実地に学ぶ世界農業遺産」

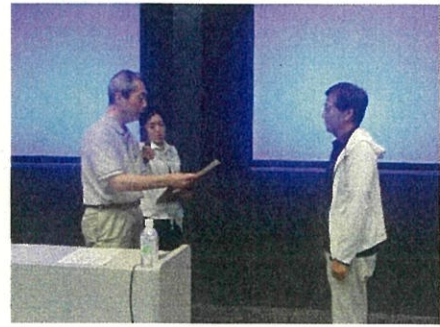
講演者：原 祐二 准教授（和歌山大学システム工学部）

講演内容：梅システムの知識を将来に継承できる人材を育成する授業「世界農業遺産」概要を紹介。受講希望者や、協議会関係者の方、報道の方々が参加。精度の高い空撮から得られたデータに裏付けされた調査成果や世界農業遺産に認定されるまでの経緯と今後求められる活動など、梅システムについて概説した。講師は、急に農家の収入が倍増することはないが一見、金に繋がらなさそうなことこそ地域の大学が地道にすることが相応しい。生態システムや、哲学、地域のことを地域のかたが学ぶこと、地域のかたが語り伝えることが、地域の価値を高めて、後の地域活性に繋がると締めくくった。

授業説明：吉田 雅章 教授（和歌山大学経済学部）、継続受講者に修了証を授与。
平成 28 年度後期～29 年前期「地域暮らしの健康学 C・D」対象 8 名



システム工学部 原准教授の講演の様子



修了証授与の様子

②南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《H29年度後期 公開講座&受講生募集説明会》…東牟婁会場（新宮信用金庫5階会議室）

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」

開催日：平成29年9月3日（日）13時30分～15時30分 参加約36名、（内、高校生6名）

会場：新宮信用金庫5階会議室（和歌山県新宮市大橋通3丁目1-4）

内容：記念講演「海に生きる熊野の人々」

講演者：櫻井 敬人 太地町歴史資料室学芸員、ニューベッドフォード捕鯨博物館顧問学芸員

講演内容：熊野灘の捕鯨文化を伝えるストーリー『鯨とともに生きる』が日本遺産に認定された事を機に、これまであまり知られていなかった三輪崎や古座の捕鯨を描いた資料等も紹介。

太地町の学芸員として捕鯨文化や移民の歴史を研究調査している実践知から、歴史文化は自然に継承されるものではなく伝えられないと継承されないことや、海を渡った移民の先人が海外でまたその国で産業を作り、そこで得た収入が今の紀南の学校等に寄付され現代の礎になっていることを紹介した。現代は、ひとつの地球で暮らす多様な人、多様な考えの中で熊野は構成されており、次代に向かい過去から学び、現代で何を選択すべきかと提議した。

授業説明：吉田 雅章 准教授（和歌山大学経済学部）



櫻井 敬人氏 講演の様子（新宮信用金庫会場）

③南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《H30年度前期 公開講座&受講生募集説明会》…田辺会場

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」

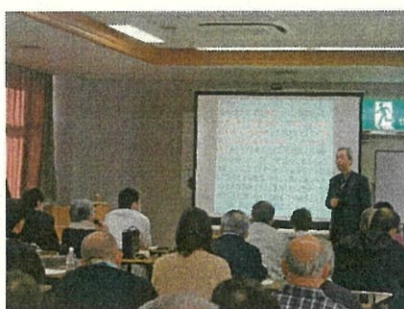
開催日：平成30年2月11日（日）14時00分～16時00分 参加24名

会場：田辺市民総合センター4階交流ホール

内容：記念講演「知って得する身近な法律」

講演者：吉田 雅章 准教授（和歌山大学経済学部）

講演内容：知っておいた方が有利な法律を、身近なトラブルを事例にしながら紹介。
身近な遺産相続の問題をテーマにした講演内容では、参加者からの質問が尽きなかった。



記念講演会場の様子



授業の内容を紹介する様子

《H30年度前期 公開講座&受講生募集説明会》…東牟婁会場（新宮信用金庫5階会議室）

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」

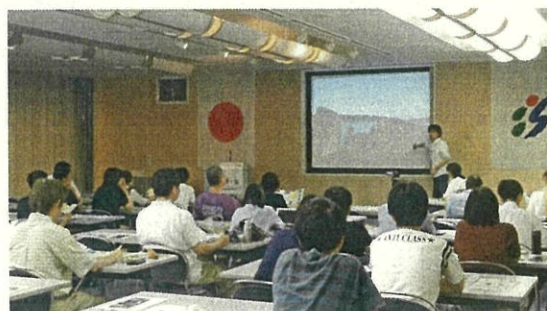
開催日：平成30年3月4日（日）14時00分～16時00分 参加19名

会場：新宮信用金庫5階会議室（和歌山県新宮市大橋通3丁目1-4）

内容：記念講演「熊野と地球と自然の脅威」～国内、世界を結ぶジオパークネットワーク～

講演者：中串 孝志 准教授（和歌山大学観光学部）

継続受講者に修了証を授与：平成29年度前期～29年後期「熊野郷土学A・B」対象19名



開講科目を説明する観光学部中串准教授

1-3 サイエンスカフェ関係

《夕方を中心に開催！幅広い世代が参加する「サイエンスカフェ」など、多様な学習機会を設置》

受講ニーズアンケートから、「気軽に参加できる講座」「夕方仕事終わりに参加できる講座」をしてほしいとの声が多かったため、堅苦しい講演会のスタイルではなく、お茶を飲みながら参加者と研究者が語る場として、自由に質問できる手軽さから毎回定員を超える参加者を得てきた。専門家による話題提供の後、参加者が自由に質問する形式で気軽に参加できる。会場も会議室ではなく市街地のカフェを利用。身近に触れるサイエンスを楽しく学べる学習機会として設置。気負いしないサイエンスカフェへの参加経験から、和歌山大学の研究内容やサテライトで開講している大学の講義に関心を持ってもらい、開設の大学院科目や学部開放授業へのステップアップ受講にも繋がっている。

①ジオカフェ…高校生対象【新宮会場】

講演名：ジオパークの先へ～食卓から考える南紀熊野～

開催日：平成29年7月8日（土）10時30分～12時30分 参加対象：高校生のみ 参加5名

会場：新宮信用金庫 5階会議室

講演者：新名 阿津子（公立鳥取環境大学環境学部准教授）、中串 孝志（和歌山大学観光学部准教授）

内 容：「私たちが普段食べる食べものはどこからやって来たのでしょうか？また、その調理法は？それは郷土料理？それとも？普段の食卓から南紀熊野について一緒に考えよう」をテーマに、夕食の食材や調理方法について語り合った。鯖やポテトなど携帯で産地を調べて、輸送コストや大地や気候の特徴から農産物は生産されていることや、地域性のある料理や食材について理解を深めた。



楽しく参加する高校生と進行の新名先生



参加した高校生と講師の様子

②ジオカフェ

講演名：ジオパークの先へ～南紀熊野の未来図を描く～

開催日：平成29年7月8日（土）18時00分～19時30分 参加24名

会 場：珈琲房 茜屋 1ドリンク付500円

講演者：新名 阿津子（公立鳥取環境大学環境学部准教授）

進行ナビゲーター中串 孝志（和歌山大学観光学部准教授）

内 容：10年後、100年後、1000年後、100万年後の南紀熊野がどういう地域であってほしいと願いますか？南紀熊野の過去・現在・未来について、のんびりと時間旅行しながら一緒に考えようとの問いかけに数人で話をしたあと会場で共有した。高校生と両親も参加。ナビゲーターの中串先生の話術で地球科学を身近に楽しむ機会となった。



ジオカフェの会場の様子（開催地の新宮市内カフェ 珈琲房茜屋）

③アドラーカフェⅡ

講演名：アドラーカフェ

開催日：平成29年7月15日（土）17時45分～19時15分 参加40名

費 用：1ドリンク付500円（小・中・高校生は参加無料）

会 場：和歌山県情報交流センタービッグ・ユー 研修室2

講演者：北九州市立大学名誉教授 博士（学術）中島 俊介氏 進行：和歌山大学経済学部 藤永 博 教授

内 容：近年、注目を集めているアドラー心理学は「対人関係の心理学」と呼ばれており、私たちの悩みの8、9割は「人間関係の悩み」だと言われている。フロイト、ユングと並ぶ心理学3大巨人の一人に数えられるアドラー心理学には、現代の複雑な人間関係を生き抜くための適切なコミュニケーションの在り方や感情についての鋭い洞察が見られる。それらのユニークな考え方や面白さを楽しく話し合った。



アドラーカフェの会場の様子（田辺市ビッグユール）

④歴史カフェ 日高郷土学

講演名：日高廻船の歴史

開催日：平成 30 年 3 月 31 日（土）14 時 30 分～16 時 30 分 参加 40 名

主 催：和歌山大学南紀熊野サテライト同窓会生 平井光 他 2 名

共 催：和歌山大学南紀熊野サテライト会 和歌山大学南紀熊野サテライト同窓会

費 用：1 ドリンク付 500 円

会 場：L' Albergo（アルベロ）御坊市野口 1069 日高川沿いにある開放感のあるイタリアン

講 師：小山誉城先生（和歌山大学 非常勤講師）

内 容：1585 年頃、秀吉の紀州攻めにより壊滅した土豪たちの水軍は漁業、廻船業に転向、江戸へ向けて、大阪などから物資を運び、経済を支えたのが菱垣廻船でした。菱垣廻船は紀州の富田、日高、比井廻船を総称した紀州廻船で中核を担っていましたが、そのなかでも中心的な役割を果たしていたのが、現在の御坊市を本拠地とした日高廻船。寛文 7 年（1667）の文書には、62 艘の廻船数が記録されている。これらのことを話題提供に、江戸の海運業について語り合った。

1-4 南紀熊野観光塾

《南紀熊野観光塾第 5 期を実施》

和歌山県「南紀熊野地域」における、観光産業従事者及び、地域活動者を対象として、「世界のトップレベルの観光ノウハウを各地に広める観光カリスマ」の山田桂一郎さんを塾長に持続可能な地域経営を考えて自主的に取り組む次世代の観光産業のリーダー的存在となる人材育成を行うための塾として開講。塾を通して広域連携の人財交流の輪を広げることで持続可能な地域振興を推進することを期待。「選ばれ続ける地域」をモットーに南紀熊野のあるべき姿をみんなで考え魅力的で持続可能な地域づくりの仕組みを担う中核的な人材を育成している。和歌山大学観光学部生や他大学の学生も参加。

◆南紀熊野観光塾 第 5 期 概要

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト、共催：和歌山大学観光学部、後援：和歌山県

目的：持続可能な地域経営、観光を担う人材養成と塾生同士の繋がりで広域地域の連携を目指す

構成：塾講義及びグループ討議、講評（第五期は、前半に基礎講習、後半に塾生講習と 2 コースで実施）

①自治体と連携した公開講演会（基礎講習、テーマ講習）（※11 月 30 日、12 月 1 日実施）

②自治体職員や紹介者を対象にした基礎講習コース（白浜町、上富田町自治体職員に呼びかけ）

③塾生と紹介者を対象にした塾生講習コース（対象は塾生とその紹介者）

◆基礎講習コース 11 月 30 日、12 月 1 日

対象：自治体職員等、観光事業者、一般住民（全部の回に参加する意欲のある方）

◆塾生講習コース 2 月 20 日、21 日

対象：塾生、塾生の紹介者、講師紹介者、学生（全部の回に参加する意欲のある方）

会場：和歌山県内 西牟婁地域、東牟婁地域にて開催

平成29年 11月30日～12月1日（1泊2日）和歌山県立情報交流センター ビック・ユー

平成30年 2月20日～2月21日（1泊2日）古座川町月野瀬温泉ぼたん荘いろり館

◆南紀熊野観光塾 第5期 基礎講習コース

開催日：平成29年11月30日（木）、12月1日（金）

会場：和歌山県立情報交流センター ビック・ユー ネットワーク実習室、
研究室2、ワールドカフェのみ研究室3

テーマ：「なぜ、地域振興に観光が必要なのか」

講師：和歌山大学客員教授山田桂一郎塾長、横山昌太郎講師、西谷雷佐講師
和歌山大学観光学部出口竜也、竹林浩志、此松昌彦

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト、共催：和歌山大学観光学部、後援：和歌山県

内容：南紀熊野地域で観光商工業の従事者や自治体職員、地方議員、和歌山大学観光学生と県外からは札幌、滋賀、兵庫、佐賀、岐阜下呂、と全国の観光商工業従事者や自治体職員等、幅広い世代の方が参加。「ローカルカフェ」では地域の課題や良さなど個々の想いを色紙に綴り、そこからディスカッション。雰囲気は大喜利。個人ワークや論点整理と5年の取り組みと参加者への聞き取りからインプットとアウトプットを織り交ぜた構成にして理解しやすい工夫をした。塾参加者からは好評を得た。口コミから多数ご応募いただき、募集定員を超える申込みを得た。

《基礎講習カリキュラム》「なぜ、地域振興に観光が必要なのか」

11月30日（木）1日目

開塾式、趣旨説明、塾長講演「選ばれ続ける地域とは？」

講師講演「稼ぐためのツアーと仕組みづくり」「あるものを活かし」で地域力発信！

論点の整理、塾長講演「地域ならではの素材の見つけ方、みがき方」

夕食交流会、夜なべ談義（希望者宿泊）

12月1日（金）2日目（基礎講習②）

塾長講演「脱日級志向で地域振興！」

講師講演「①地域振興を阻むカベをどう崩すか②SPTにより売れる企画を！」

講師講義「南紀熊野の価値をどう高めるか」 トークセッション

論点の整理、個人ワーク、ワールドカフェ 参加者と講師の意見交換タイム

塾長講演「感幸地を観光地に！」閉塾式、基礎講習修了証授与、記念撮影



開塾挨拶する出口教授



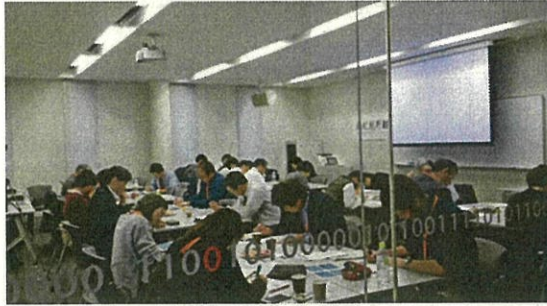
塾長講演の様子



講演をする横山講師



講演をする西谷講師



個人ワークに取り組む塾生



講演会場の様子



ワールドカフェならぬローカルカフェの様子 大喜利のフリップトーク



南紀熊野の魅力について講義する出口教授と此松教授



会場の様子



修了証授与式の様子 (田辺市庄田さん)



南紀熊野観光塾第5期基礎講習修了生 所信表明を手に記念撮影

◆南紀熊野観光塾 第5期 塾生講習コース

開催日：平成30年2月20日（火）、21日（水）

会場：古座川町南紀月野瀬温泉ぼたん荘いろり館

テーマ：「地域ならではの商品の作り方」

講師：和歌山大学観光学部出口竜也教授、竹林浩志准教授、教育学部此松昌彦教授

内容：地域ならではの商品の作り方をテーマに、地元産品を活用した取り組みについて学んだ。塾長講演の後、受講前に提出したエントリーシートを塾生が発表。皆で共有した。その後講師から講評があった。夕食は地元食材にこだわった料理を深海料理長から紹介。原木しいたけの摘み取りして網焼きにするなど地元で採れた野菜やジビエを頂いた。その後、夜なべ談義で深夜まで語った。夜なべ談義と同時進行で、古座川の鹿革を使ったレザークラフト体験を塾生の真鍋氏、石垣氏（白浜町）を講師に行った。石垣氏からは紀州材を使った木札の紹介があった。翌日は、同町産業建設課のジビエ担当、細井孝哲氏を講師に迎え、地域の課題であった野生鳥獣を食肉としてブランド化する取り組みについて学んだ。細井氏は「地域課題を地域ブランドに！古座川町における鹿肉の商品開発」と題して講演。同町の獣害対策として、柵による防除や煙火による追い払い、銃やわなによる捕獲、食肉に加工処理する利活用について話した。ジビエとしての販路拡大の取り組みを紹介し、現在はアスリート向けのPRに力を入れていることにも触れた。昔はタラ漁の邪魔になるとして駆除されることもあったタラバガニと同じように、ゆくゆくは古座川のシカを貴重な地域資源にしたいと語った。山田桂一郎塾長とゲスト講師の「無双地図」（香川県）取締役新記号事業部長、横山昌太郎さんを交えてのトークセッションもあった。山田塾長がマーケティング手法について説明。その後、敷地内にある町鳥獣食肉処理加工施設の見学を行った。丁度1頭鹿が運び込まれており、解体の行程の説明を受けた。見学後はジビエランチ。午後から発表した企画改善の発表、地元産品とふるさと納税の産品を話題にグループトーク。修了証書授与式、記念撮影を行った。

《塾生講習カリキュラム》「地域ならではの商品の作り方」

2月20日（火）1日目

第五期観光塾開塾式・ガイダンス

塾長講演「地域ならではの商品をつくる理由とは」

講師講演「地域ならではの商品をつくる」

活動報告 1部「新たに取り組んだ活動、業務改善した活動に関する報告」

企画報告 2部「これから取り組もうとしている企画に関する報告」

講師による講評、論点整理 講評意見交換、論点整理

個人ワーク 個人ワークのシートの作成

塾長講演「選ばれ続ける商品をつくるには」

夕食交流会、夜なべ談義（希望者宿泊）

2月21日（水）2日目

塾長講義「地域経営における戦略と戦術」

講師講演「地域課題を地域ブランドに！古座川町における鹿肉の商品開発」セッション講演

論点整理 各自の企画事業への落とし込み、個人ワークシートの作成、企画改善の発表

塾長講演「地域経営における戦略と戦術とは」

閉塾式、塾生講習修了証授与式、記念撮影



南紀熊野観光塾塾生講習開塾式の様子（古座川町南紀月野瀬温泉ぼたん荘）



会場の様子



トークセッションの様子



夜なべ談義でのレーザークラフト体験の様子



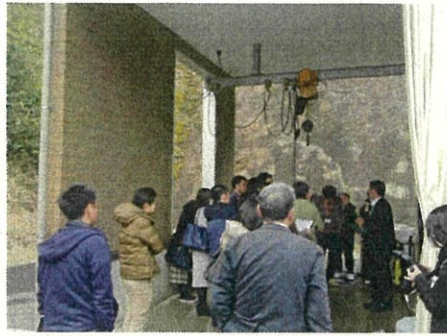
紀州材と古座川町の鹿革のノベルティ



食肉処理場の見学の様子 説明する細井氏



講演する細井氏



昼食はシビエランチ

古座川町で獲れた鹿肉のハム



塾生講習参加者と記念撮影

講演を聞く塾生の様子



修了証授与式と副賞の書籍贈呈の様子 (左) 北山村河野さん、(中) 白浜町石垣さん (右) 田辺市和田さん

◆南紀熊野観光塾 基調講演

講演名：地域ならではの商品をつくる理由とは？

日 時：平成30年2月20日（火）13時10分～14時40分

場 所：南紀月の瀬温泉ぼたん荘いろり館 参加：16名

講 師：和歌山大学山田桂一郎客員教授が塾長、和歌山大学観光学部、

内 容：南紀熊野観光塾の開講を記念して基調講演を実施。オンラインプラネットで訪れたい地域、世界5位になった紀伊半島で実施される「観光創生」を学ぶ塾。民間企業、宿泊業、ガイド業、自治体職員、大学生、商工観光担当者、ガイド、一次産業従事者、地方議員等、幅広い塾生が同じ教室で学んだ。募集定員15名に対して、全国から28名参加。北海道、福井県、岐阜県、京都府、滋賀県、大阪からも自治体職員や観光コンサル業の事業者等の参加があった。



基調講演の様子（古座川町南紀月野瀬温泉ぼたん荘） 講演する山田桂一郎塾長（和歌山大学客員教授）

◆南紀熊野観光塾第5期 塾長、ゲスト講師（4名）紹介

塾 長：山田桂一郎氏【JTIC.SWISS 代表、日本エコツーリズム協会理事、観光カリスマ、和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授】2005年に観光カリスマ（内閣府・国土交通省（観光庁）・農林水産省 認定）「世界のトップレベルの観光ノウハウを各地に広めるカリスマ」として、ヨーロッパを中心とした環境保全（環境保全活動プログラム、環境教育、環境アセスメント等。海外在住者として初めて日本の環境省に登録された環境カウンセラー）と世界各地における滞在プログラム・ツアーの実施と観光・集客交流の事業化、マーケティングの経験を活かし、観光・地域振興（まちおこし・自立型地域経営、サービス向上、人材育成や中心市街地・商店街活性化等）に関する講演やセミナーの講師として全国各地から招聘されている。また、日本国内でも地域振興・再生のコンサルタントとして様々な事業化（特に地域経営マネージメントの組織化）を進め、多方面で積極的に事業活動を展開し、多くの実質的な成果と結果を残す。民間企業やNPO法人の他にも多くの省庁や地方自治体の委員、プロデューサー、コーディネーター、アドバイザーを務め、大学や高等教育機関でも教鞭をとっている。近年は観光庁「訪日観光セミナー」講師、ミシュラン・グリーンガイドの取材コーディネイトも行う。2011年には週刊日経ビジネス誌において「次代を創る100人」の一人として選出された。

講師1：横山昌太郎氏【無双地図株式会社】

無双地図株式会社 取締役新規号事業部長 1971年広島県出身、三重県育ち。名古屋大学農学部森林保護学研究室にて吉野熊野国立公園におけるニホンジカによる森林荒廃に関して調査・研究を行う。野生生物保護管理に関わることを目指し環境庁（当時）に入庁。全国の国立公園の許認可業務や自然保護官などの国立公園行政、野生鳥獣の保護管理、都市公園業務（国土交通省出向時）などに9年間携わる。「自然の不思議や素晴らしさを人々と一緒に楽しむ仕事がしたい」との思いから環境省を退職。（株）ピッキオ（星野リゾート子会社のエコツアー団体）に入社、ツアー

ガイドとなる。森の案内やツアー企画を主としつつ、ガイド養成講習会の講師、インバウンド向けツアー業務、各地のエコツーリズム推進全体構想作成等も担当する。10年間のガイド経験後、より地域に根ざした生活と活動を目指し2016年4月香川県に移住。翌4月より無双地図株式会社取締役新記号事業部長。地域ならではの「暮らし」に焦点を当てたガイドツアーや食サービスの提供を担当している。資格等：博士（農学）、通訳案内士（英語）、国内旅行業務取扱管理者

講師2：西谷 雷佐氏【一般社団法人 東北インアウトバウンド連合 理事長、たびすけ合同会社 西谷代表】
1972年、青森県弘前市生まれ。高校卒業後、アメリカ・ミネソタ州立大学に入学。地元の旅行代理店に就職。ツアー客の添乗員として全国47都道府県、海外15カ国以上を添乗、ガイドのほか旅行商品の売り込みや団体客への営業などを行う。2006年に弘前商工会議所青年部に入り2009年にYEGビジネスプランコンテストでグランプリを受賞。翌年に地元青森県弘前市で地元民だからこそ知る情報を基に旅行商品や体験プログラムを企画・運営する旅行代理店「たびすけ」を創業。経営の傍ら、まちあるき団体「路地裏探偵団」にて、メジャーな観光スポットではない地元住民ならではの視点で路地裏や生活圏などを巡るなど、まちあるき観光を案内。青森県サイクル・ツーリズム推進協議会では座長を務める。国立大学法人弘前大学 特任准教授として講義を行うほか、東北6県から民間企業15社が集まり、国内外から観光客を受け入れられるようなプラットフォーム「東北インアウトバウンド連合」を発足。活動の拠点を弘前に置き、呼び込むだけでなく、東北エリアの人たちをもうまくつないで、最低でも東北という単位で観光客を周遊させるようなブランド化を目指している。

講師3：細井孝哲氏【古座川町役場 産業建設課 Project General Manager 鳥獣被害対策、ジビエ担当】
第1種猟銃免許、わな免許取得。趣味：うなぎ漁、好きな食べ物：鹿、猪、うなぎ。活動内容は下記のサイトをご覧ください。「AGRI JOURNAL（アグリジャーナル）」農業で地域活性化！ジビエの常識を覆した町の漢たち <https://agrijournal.jp/production/36271/>、政府インターネットテレビ 徳光・木佐の知りたいニッポン～より身近に！より美味しく！いま注目の食材「ジビエ」 <https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg16494.html>、とっとりバーガーフェスタ2016「里山のジビエバーガー」日本 <http://kishu-ume-burger.jp/satoyama.html>

【2】生涯学習部門／高大連携部門

2-1 生涯学習関係／講座・セミナー

《県教育委員会や地域連携・生涯学習センターと連携、地域課題に寄り添う取り組みに参画》

地域において保育や子育て支援等の仕事に関心を持ち、子育て支援分野の各事業等に従事することを希望する者に対し、多様な子育て支援分野に関して必要となる知識や技能等を修得するための全国共通の研修制度を創設し、これらの支援の担い手となる「子育て支援員」の養成を図ることを目的に開講された子育て支援研修の紀南地域での広報支援などを行った。



2-7 大学広報・情報提供関係

《入試広報物の配架や、学内広報室と連携した情報発信、わかりやすい広報媒体の作成を行った》

大学の情報誌などの配架や、学内広報室と連携してネット配信にて学内のサークル紹介やウエルカム動画などを配信できる「デジタルサイネージ」の設置を行った。南紀熊野サテライトのホームページの仕様を見やすく変更。また、写真を多用して、南紀熊野サテライトと大学の紀南地域の取り組みを分かりやすく紹介したパンフレットを作成するなど、学内外への情報発信の強化を行っている。

《広報活動の取り組みの事例》

- ①入学者選抜要項・教員免許状更新講習などの案内冊子の提供や相談対応。
- ②本学広報室と連携して紙媒体・本学ホームページを通じた広報を実施。
- ③学内の広報室と連携して、学生活動動画をネット配信できるデジタルサイネージを設置。
- ④ホームページ、パンフレットを見やすい仕様に変更。
- ⑤地元ラジオ番組に出演して南紀熊野サテライトの活動をPR、受講生募集告知等を行った。
- ⑥今年度より、募集している授業内容を担当教員に概要紹介のVTR映像をHPにて配信。



広報ラックを充実

広報室作成のサークル紹介VTR配信

【3】地域研究／本学授業講義支援／学生、同窓会活動支援

3-1 地域研究関係

《学内の研究プロジェクトや教職員の地域活動の支援、学生の現地活動の支援を実施》

一昨年度に和歌山大学教育改革推進事業 OSM と LocalWiki を活用した地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業での現地活動の支援を実施した。その後研究成果を基に代表教員等と企画して南紀熊野サテライト科目「熊野郷土学」でこの手法を習得する授業を実施。東牟婁地域にもリージョンが誕生した。教育プロジェクトで学習した学生も学習のサポート役として参加して地域ガイドや高校生に技術を伝えて学びを深める機会となった。

《和歌山大学教育改革推進事業とは》

オープンソースの地図であるOSM（open street map）と地域情報をウィキペディア形式で記事化できるLocalWikiを複合的に活用した地域資源の発掘と情報発信を行う作業を通じて、持続可能な社会を担う人材育成を目的とした事業で、本学学生との協働で学生では得られない地域資源の情報の獲得をはかるとともに外部者の視点を持つ本学学生による地域資源の評価を地域住民に提供することで地域資源の価値のとらえ直しを行う機会となった。同地域で過去に作成した地図のデータ入力によるデジタル化が実現している。人口減少による担い手が課題となっている市街地の祭りにも参加してこの技術を伝えている。インターネットのサイトを活用して世界に発信する貴重な機会を継続していただいた。



田辺祭の学生レポートサイト誘導するQRコードをマップに記載 祭人から聞き取りする学生

3-2 本学授業、学生との連携・支援

《学生の調査や研修時に、地域情報を紹介するなどの活動支援を実施》

南紀熊野地域でのフィールドワークや、各種企画の相談や現地調整等、教員や学生の地域での教育研究の現地支援を実施した。

◆和歌山大学経済学部新入生合宿研修 in 南紀田辺「旅スルタナベ」

開催日：平成29年4月7日（土）～8日（日）11時40分～15時頃まで市内を散策

会場：田辺市扇ヶ浜カッパーク、田辺駅周辺の商店街や市街地

内容：和歌山大学経済学部新入生と和歌山大学教職員等320名が参加。

3つのグループに分かれて田辺市街地を散策するウォークラリーを開催した。市街地の数箇所にまちの歴史や民俗に因んだクイズパネルを設置して、クイズラリーを実施。大学生が店主に話を聞きながらクイズを解くことで、まちの魅力を発見する取り組みとなった。田辺市企画課、和大大OBの方の協力を得て開催。※4月6日和歌山大学教育学部新入生合宿研修は白浜町にて開催。



田辺市扇ヶ浜カッパークでの到着時に田辺市職員の皆様に受け入れ頂く様子



田辺駅周辺の商店街の状況や、商店街で活躍する卒業生や塾生と話す引率教員の様子

◆古座川町での自然体験研修の開催支援

題名：メンタルヘルス研修会 会場：古座川町ふるさと定住センター

内容：保健管理センター所管の学生サークルと和歌山大学生教職員、約15名が農業体験研修に参加。職員の方々に農作物について解説を受けて畑で採れたてのさつま芋を大学生が大学芋に調理。古座川の自然を満喫した。自分で選んだ芋を丁寧に包んで炭火で焼いた焼き芋を持ち帰った。自然豊かな紀南地域での移住に関心を持つ学生も居り熱心に職員の話聞いていた。この研修会の地域情報の提供と実施支援を行った。



ふるさと定住センターの職員の話聞く学生



畑での収穫を見学する様子（古座川町）

◆和歌山大学学術リポジトリデジタル教材絵本の作成協力

題名：絵本「かんじゃサヨのいた村：阿テ河荘物語」（よみきかせ）

製作：原作、編集者…教育学部海津一朗、作画…南紀熊野サテライト地域連携 CD 古久保綾子
デジタル化協力…システム工学部松田憲幸

内容：舞台は和歌山県有田川町。小中学校の歴史教科書に掲載される阿テ河荘について、蘭島（あらぎじま）の重要文化的景観指定の研究成果を踏まえて叙述した作品（原作海津一朗・作画古久保綾子・協力松田憲幸）をデジタル教材として和歌山大学リポジトリへデジタル教材として保存した。地頭の暴虐や農民の一揆のみが取り上げられる教科書記述に対して、中世人の自然観（徳政）や自然災害、宗教権力としての湯浅党など社会史・地域史の成果を大胆に組み込み、全く新しい歴史像を提示した。絵本自体は2011年の入選作品だが、2018年「固定観念をうちやぶる教育実践の試み」という松田憲幸研究室との連携過程でよみきかせが制作された。以下の和歌山大学学術リポジトリからダウンロード可能。

<http://repository.center.wakayama-u.ac.jp/detail/338120180411132922>



有田川町の歴史的な史跡や国宝の薬師堂での現地調査の様子

史跡を解説する日本史の海津教授

◆田辺市大学連携地域づくり事業（採択2件の申請と現地支援を実施）

事業概要：大学等との連携によって学生を本市各地域に呼び込むとともに、地域が抱える人口減少や過疎化に伴う様々な課題に対する解決策を地域住民らとともに考え、地域の持続と振興に資することを目的に実施するものであり、大学等が実施する地域や本市行政組織と連携した実践的な活動等に対し支援を行う。

事業名：「田辺祭を世界に発信！」OSM と LocalWiki を活用した地域資源の発掘と情報発信による
リーダー育成事業

実施日：平成29年7月23日～25日 場所：田辺市街地（南新町）

参加：14名（教職員3名、学生11名）引率代表：観光学部出口竜也教授

内容：7月24日、25日に田辺市の中心市街地で開催される「田辺祭」を訪れ、祭に参加することで地域住民らと交流する。その聞き取り調査の成果を OSM と LocalWiki を活用することで発信しその結果を地域に還元する。地域の現状を理解し新しい学習手法としての成果発信は地域情報の「見える化」の実現となり田辺市街地のみならず応用可能なモデルになる。その手法を伝統行事に使用する取り組みは地域住民の地元愛やほこりの熟成に寄与することも期待。後に市街地マップにサイトへ誘導する QR コードを付けて配布。成果報告会を地域で行った。

引率：和歌山大学観光学部出口先生、和歌山大学紀州経済史文化史研究所吉村先生

COC+事業富永、大坪、合計教員4名、学生11名が参加

内容：田辺市街地で開催された「田辺祭」に、平成27年から、同市南新町の協力を得て和歌山大学生が田辺祭に参加。住民らの手伝いをしながら祭りの歴史や行事などを調べ、インターネットを通じて紹介する取り組みを実施している。地域のことを記述できるサイト「Localwiki（ローカルウィキ）」とネット上の地図に地域情報を書き込む「オープンストリートマップ」にまとめて紹介。昨年は計13本の記事を発信。今年は観光学部の学生12人（観光学部生10名、教育学部祭礼研究会学生2名）と卒業生1名、教員4名が参加。笠鉾（かさぼこ）の巡行や食事の準備などを手伝った。また、祭りの歴史や時代の変遷、地域の方の思いなど聞き取り、大学に戻りローカルウィキ等に情報発信を実施。後日にお世話になった田辺市南新町の方をお招きして現地で作成したサイトを説明する参加学生の調査報告会を実施。



田辺祭に参加する学生の様子（田辺市街地）

町内会の方と記念撮影の様子



田辺祭について、インターネットで配信する記事を聞き取り

祭りに参加している様子（南新町）



お世話になった町内会の方へ現地報告会を行う学生の様子（田辺市南新町町内会館）（左）と成果物（右）

他 1 件、今年度も継続して以下の事業も予定したが、荒天のため中止

事業名：「地域から学ぶサステナビリティ～観光の視点を活かした持続可能な地域づくり」～「サステナブルツーリズム」をテーマとする地域研究（フィールドワーク）

実施日：平成29年9月16日～18日 場 所：田辺市中辺路町高原、近露

参 加：延べ15名（教職員5名、学生10名）引率代表：観光学部加藤久美教授

内 容：地域の持続性を活かしたサステナブルツーリズム開発を目的として地域と連携した研究調査を行う。本事業は集中講座「Sustainability & Management」の一環として行い、地域の自然、文化を活かした取組みを行っているコミュニティや個人を訪れ、その理念、活動、課題について調査を行う。今年は特に若い世代、I/U//J ターンに焦点を当て、聞き取り、ディスカッションを行い、若い世代の地域貢献について考察。本企画は毎年行うことで地域との継続的関係を築き、観光研究・教育活動を通じて持続可能な地域発展を支援することをめざす。2017 年は国連「開発のための持続可能な観光国際年」、その記念事業の位置付け。



3-3 大学同窓会組織との連携活動

《アンケート調査を実施。紀州地域学共同研究公開シンポジウムを地域で開催誘致の支援を実施》

地域の同窓生の多様な業種世代の交流と連携を深めるための、企画講座や提案事業等の活動を支援。

今年度は、紀雲会の紀南地域開催となったので、地域の和歌山大学出身者や同窓会、経済、教育のOB会に参加の呼びかけを実施するなど運営支援を行った。

◆和歌山大学 紀雲会交流会 in 南紀

開催日：平成 29 年 9 月 22 日(金) 17 時 30 分～20 時 30 分

会場：第 1 部、講演会（会場：和歌山県立情報交流センター・Big-U 研修室 1、和歌山県田辺市所在）
第 2 部、情報交換会（会場：ホテルハーヴェスト南紀田辺、和歌山県田辺市所在）

内容：紀州雲会の交流会は、紀南地域で初開催。第一部講演会では、田辺市との連携活動、本学 COC+ 推進室の取組、和歌山大学の地方創生活動について紹介。第二部情報交換会では、紀南地域の大学出身者の情報交流の場として実施。

開会挨拶：紀雲会長 山本 健慈、和歌山大学長 瀧 寛和

講演 1：「地方創生に関する和歌山大学の取り組み -わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築-」 COC+推進室長・教授 金子 泰純

講演 2：「人と地域が輝き、未来へつながるまち田辺 -和歌山大学との連携による取組-」
田辺市長 真砂 充敏 氏

※「紀雲会」は、和歌山大学を応援くださる皆様（保護者等で組織する後援会、同窓会、地域、企業・団体、大学教職員等）の交流会として発足し、今回、各組織の連携と融和を図り紀南地域の皆様を対象に和歌山大学の地方創生活動を知っていただくために本学の取組内容や田辺市の連携活動等を紹介。大学教職員と参加者に交流の場を持ち諸活動への理解と連携を深めることを目的として開催された。この事業の地域情報提供と広報支援を行った。



田辺市での大学連携活動を紹介する田辺市長



紀雲会の紹介と大学活動を紹介する瀧学長



近隣のホテルで実施された交流会の様子

◆歴史カフェ

開催名：日高郷土学：「日高廻船の歴史」

開催日：平成 30 年 3 月 31 日（土）14 時～16 時 参加者 35 名

講師：徳川ご三家や郷土史編纂で当地に詳しい和歌山大学非常勤講師小山誉城先生

会場：和歌山県御坊市イタリアンレストランアルベロ

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト同窓会

後援：和歌山大学南紀熊野サテライト

内容：日高郷土学は、和歌山大学南紀熊野サテライトで紀州郷土学を学んだ受講生の企画で実施された。この企画は、更に郷土史を学びたいと同窓会からの依頼でサイエンスカフェを共同企画することになった。地域産業の流通の要であった海運業について日高廻船を話題に楽しく語り合った。参加者には、日高高校や箕島高校の現役の先生、校長先生、地元商業の方と様々。江戸と関西の上り下りや、金と銀の為替の違いの話、企業間の競争、海運業を取り巻く暮らしなど、講師の分りやすく興味深い話題提供の後でディスカッション。海運業の末裔の方が貴重な資料を持参。当時の木札や陶器を観察しながら質問が尽きず楽しい語り合いとなった。



日高郡で初めて実施された歴史カフェ（イタリアンレストランアルベロ様にて）

◆南紀熊野観光塾 情報交換会

開催日：平成 29 年 9 月 7 日（木）17 時～19 時 会場：田辺商工会議所 3 階会議室

内容：南紀熊野観光塾第一期生～第四期生の修了生が参加して、観光塾修了後の自主的な活動の進捗を塾生や講師に紹介する情報交換会を実施。田辺市、白浜町、上富田町、すさみ町、串本町、古座川町から幅広い地域の塾生が参加。活動報告は、各 10 分程、9 名が報告。報告に対して、和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授山田桂一郎塾長、観光学部出口先生、竹林先生、教育学部此松先生が講評としてコメント。更なる活動と塾生同志の連携を期待。現在、4 年目を迎え、修了生は各地で中核となって活動。報告者は以下の通り。

古座川町ぼたん荘の平見様、串本町ラパン青木様、すさみ町議員中嶋様のチームより、宿泊施設を軸とした広域の体験型観光等の連携の活動紹介、白浜町でゲストハウスを開業された古久保様、田

辺市本宮町のマップを監修されたみくまのネットの大竹様、ジオパークの広域マップを構想中の熊野くるりの石丸様、田辺市を主に活動する TETAU の活動や紀州材の木材、あかね材の活用を進めているコログラフィカの竹林様、タモリ舎、たなべ大学、ゲストハウス等の活動や経営をされている桜井様、着地型の旅行会社、熊野トラベルを開業された多田様、熊野+、熊野×の企画のお話もご紹介頂いた。観光=総合産業の地域内循環から持続可能な紀南地域の将来を考えて活動に活用。



ゲストハウス起業の報告をする古久保さん 会場の様子（田辺市商工会議所）



田辺市でのリノベーションやタモリ舎の活動報告をする桜井さんと講師先生方



広域連携での宿泊型体験プラン企画を報告する平見さん、青木さん、中嶋さん



（左）あかね材のデザイン性を利活用する報告をする竹林さん

（右）世界遺産・ジオマップ作成の報告をする大竹さんと石丸さん



田辺市熊野ツーリズムビューローでの新しい取り組みを報告する多田さん



和歌山大学観光学部での集中講義の様子（山田桂一郎塾長と藻谷浩介氏）



集中講義終了後記念撮影（参加学生へ観光塾の紹介） その後の懇談会の様子

◆南紀熊野観光塾第4期生 商品開発会議

開催日：平成29年6月21日（火）14時30分～16時30分

場 所：南紀月野瀬温泉ぼたん荘 広間

内 容：南紀熊野観光塾第4期生で組まれたチームの中の1チームが商品開発の会議を実施。広域他業種の連携で白浜町、すさみ町、古座川町、串本を活動地域に事業所を持つ4名が強みを生かし、持続可能で観光に特化した商品の開発を検討した。宿泊事業者を軸としてフィールドガイド業者が体験型観光を企画。初級、中級、上級と体験を重ねるうちに地域に定住をする仕組みを検討した。塾生同志で企画した事業を具体化していくための意見交換を行なった。



観光商品の企画についての意見交換を行う塾生（南紀月野瀬温泉ぼたん荘）

◆南紀熊野観光塾 塾生の活動



◎和歌山市：吉田様（和歌山麦酒醸造所）

AGARA シリーズ 4 種と和歌山大学とのコラボ商品 1 種が大手ローソンに勢ぞろい！ AGARA craft

◎白浜町：真鍋様（CHOUETTE D'OR）

塾後に和歌山市で 97 年間なめし工場を営んでいる老舗「藤本安一商店」様に視察。異業種連携の機会に。

◎白浜町：古久保様（ゲストハウスZENゲストハウス好日庵）起業

和歌山県白浜町堅田のJR白浜駅近くで、民家を改装した宿泊施設を開業。旅行会社の勤務経験も生かして活動。一棟貸し切りや個室プランも備えている。

◎串本町：青木様（本州最南端「橋杭ビーチ」ビーチハウス・ラパン）起業

休憩スペースでの飲食販売、シーカヤックツアー、SUP（スタンドアップパドルボード）体験、フィッシングカヤックレンタルなどアクティビティを提供。

【4】地域連携・産官学連携部門／地域からの相談／広報活動

4-1 大学との地域の連携・協働推進

《企業や自治体、教育関係からの相談対応や事業協力、活動支援を実施》

地域課題解決に向けて学内外の連携、協働を推進。学内の教育支援フォーラムの配信講義への協力、南紀熊野ジオパーク推進協議会への活動支援を実施した。

- ①地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力。
- ②特別支援教育コーディネーターフォーラム遠隔開催サポート（和大本学→Big.u 通信）今年度 4 回実施。
- ③高等教育機関コンソーシアム和歌山等の企画提案事業の南紀熊野地域説明会支援。
- ④「南紀熊野ジオパーク」推進協議会関連への活動協力を継続実施。

◆②第75回和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラム開催支援

和歌山大学の会場より大学教員が県下4市の各会場にテレビ中継（きのくにe-ネット利用）で講義を結び、「発達障害のある子どもの家族への心理的支援について～診断から就学までの早期家族支援～」をテーマにした授業講義を同時期に中継した。講演後には、特別支援教育及び障害者福祉の近年の動向をご紹介し、ネットでのテレビ会議システムを利用して、会場参加者とディスカッションを行った。南紀熊野サテライトでは、このネット中継講義やフォーラムの開催支援を毎年行っている。

開催日：平成29年11月22日（水）18時30分～20時30分 申込：不要（対象：教育関係者）

会場：会場1：和歌山市：和歌山大学 システム情報学センター1F第2演習室

会場2：田辺市：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユース研修室4

会場3：新宮市：みくまの支援学校 会議室、会場4：橋本市：きのかわ支援学校 会議室

主催：和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラム事務局

講師：和歌山大学教育学部特別支援教育学教室江田裕介、武田鉄郎、山崎由可里、古井克憲、竹澤大史

講演：「発達障害のある子どもの家族への心理的支援について - 診断から就学までの早期家族支援 - 」

講師：和歌山大学教育学部古井克憲准教授、和歌山大学教育学部講師竹澤大史講師

内容：発達障害のある子どもへの支援において、最も身近な存在である家族への支援は大きな意義を持ち、子どもへの支援と同様に家族への支援においてもライフステージに沿った早期からのアプローチが重要だと考えられている。フォーラムでは、発達障害のある子どもの家族への支援を実践研究の内容を交えて講義。特別支援教育及び障害者福祉の近年の動向を紹介。教育・支援についてディスカッションを行った。

◆企画巡回展の開催支援

平成29年秋～翌年2月迄開催される企画巡回展の地域開催を支援した。この企画は、10月にブラジルの祝賀式典会場にて行われる日本とブラジルの交流100周年を記念して行われた。大学内、和歌山市内、田辺市内2か所で実施。田辺市立図書館では、ミュージアムークやシンポジウムが行われた。この企画巡回展の地域開催の準備、広報等、運営の支援を行った。

主催：和歌山大学地域活性化総合センター紀州経済史文化史研究所

共催：（公財）和歌山県国際交流協会、和歌山県中南米交流協会、後援：和歌山県立図書館、田辺市教育委員会、協力：JICA 横浜海外移住資料館、和歌山大学南紀熊野サテライト、中南米交流協会、

趣旨：1908（明治41）年781人の契約移民を乗せた笠戸丸がブラジルに入港し日本からブラジルへの集団移住がはじまり、日本とブラジルの交流は100周年を迎えた。和歌山県からも多くの人々が、渡航。初期移民の時代から100年の時を経て、本年10月サンパウロではブラジル和歌山県人会が主催して100周年を祝う式典を開催。この記念年、和歌山大学紀州経済史文化史研究所では、地域の機関・団体と協力して巡回展「移民と和歌山2017ー和歌山からブラジル100年の時を経てー」を開催。2017年10月から2018年2月にかけて、県下3か所を巡回展示。ブラジル移住者の足跡をたどり、これまでの100年から現在、未来へ考えることをテーマに実施。この記念事業の地域開催の支援を行った。各会場の実施詳細は下記の通り。

◆巡回展 Part1 移民と和歌山2017

開催名：「和歌山からブラジルへ 100年の時を経て」

期間：平成29年10月6日（金）～11月8日（水）※図書館閉館日の月曜日を除く

時間：平日9時～19時、土日祝9時～18時

会場：Big-U内 和歌山県立紀南図書館

主催：和歌山大学 地域活性化総合センター 紀州経済史文化史研究所

共催：(公財)和歌山県国際交流協会 和歌山県中南米交流協会

後援：和歌山県立図書館 田辺市教育委員会

協力：JICA 横浜 海外移住資料館 和歌山大学南紀熊野サテライト

※詳細：和歌山大学 紀州経済史文化史研究所ホームページ <http://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/>

内容：パネルを中心として、ブラジル移住者の関連資料や書籍などを展示する。展示内容は以下の通り、南米への移民（概要）、神戸から船にのって渡航まで、移住地での仕事と暮らし、戦後の移住再開、松原移住地の今昔、現在につづく交流（海外県人会）、未来へのメッセージ

◆巡回展 Part2 移民と和歌山 2017

開催名：「和歌山からブラジルへ 100年の時を経て」

期間：平成29年11月15日（水）～11月23日（木）図書館閉館日を除く

時間：平日 9時30分～19時30分、日曜・祝日 9時30分～18時

会場：田辺市立図書館たなべる1階交流ホール（巡回展会場）

主催：和歌山大学 地域活性化総合センター 紀州経済史文化史研究所

共催：(公財)和歌山県国際交流協会 和歌山県中南米交流協会

後援：和歌山県立図書館 田辺市教育委員会

協力：JICA 横浜 海外移住資料館 和歌山大学 南紀熊野サテライト

内容：パネルを中心として、ブラジル移住者の関連資料や書籍などを展示。展示内容は以下の通り、南米への移民（概要）、神戸から船にのって渡航まで、移住地での仕事と暮らし、戦後の移住再開、松原移住地の今昔、現在につづく交流（海外県人会）、未来へのメッセージ

◆ミュージアム・トーク&シンポジウム

開催日：平成29年11月23日（木）祝日 14時00分～14時45分

会場：田辺市立図書館たなべる1階交流ホール（巡回展会場）

担当：東悦子（和歌山大学観光学部・紀州経済史文化史研究所）

主催：和歌山大学 地域活性化総合センター 紀州経済史文化史研究所

共催：(公財)和歌山県国際交流協会、和歌山県中南米交流協会、後援：和歌山大学南紀熊野サテライト

内容：展示パネルについて説明。

◆パネル・ディスカッション

開催名：「移民母国和歌山とブラジルの交流～過去から現在、そして未来へ～」

会場：田辺市立図書館2階大会議室 同日 15時00分～16時30分

内容：話題提供、ディスカッションコーディネーター 東悦子（和歌山大学）

話題提供①真砂睦氏（和歌山県中南米交流協会代表）「和歌山県中南米交流協会の新たな取り組み」

話題提供②富家力氏（和歌山県中南米交流協会副代表）「100周年記念式典に出席して」

話題提供③田中実マルコス氏（浄土宗龍泉寺住職・佛教大学非常勤講師）「ブラジルとの交流」



県立紀南図書館で実施された企画展示の様子（田辺市ビッグ・ユー）

◆平成 29 年度 地域イノベーション機構教職員研修会 広報協力、当日参加

開催名：「人口減少時代の地方大学と地域の発展と連携」

開催日：平成 30 年 3 月 15 日（木）14 時 50 分～16 時 20 分

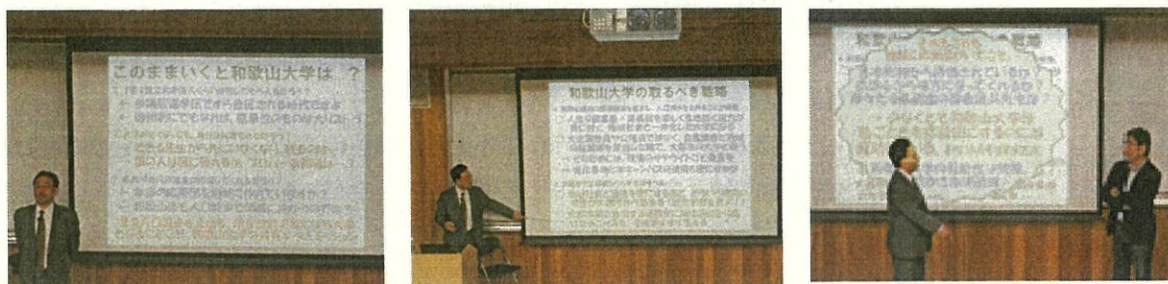
場 所：和歌山大学 西 4 号館（旧観光学部棟）T-101 教室 対 象：教職員、学生及び一般

主 催：和歌山大学研究・社会連携課

講 師：(株)日本総合研究所 主席研究員 藻谷浩介氏（和歌山大学地方創生・食農アドバイザー）

趣 旨：和歌山大学では多くの教員が地域と連携して教育研究を実施していることから、地域イノベーション機構では、和歌山県をはじめ地域の共通課題を知っていただくため教職員研修会を開催。

講演内容：現在は人口減少時代の中で、地域をどうしていくことが理想なのかを考える研修として、地域エコノミストの藻谷浩介氏に和歌山県の将来や理想的な大学と地域連携などについてご講演を依頼。地域連携に関心のある教職員、学生、地域の皆様に参加呼びかけ研修会を実施。講演では、現代の人口動向を概説して、自治体の規模が小さくなる中、市町村合併のように都道府県も合併もあり得る。一県一大学の時代は終わるだろう。時代は厳しくなる中、空港が近く、都市部と隣接する好立地を活かしながら地銀のように、地域に必要とされる大学か否かが今後の生き残りを左右する。サテライトを持つ利点を活かして、地域ならではの教育研究の推進が最重要と纏めた。



藻谷浩介氏の講演の様子、山田桂一郎客員教授もコメント（会場：和歌山大学）

4-2 きのくに活性化センターとの連携

《きのくに活性化センターの会議や研究調査活動に参画》

きのくに活性化センターと連携して、地域課題や地域資源について研究調査活動を実施している。

きのくに活性化センターの事業概要は、田辺、新宮両広域圏市町村組合（紀南地方全自治体）や田辺、新宮商工会議所、JA 紀南、和歌山県、和歌山大学（南紀熊野サテライト）の参画による調査研究機関として紀南地方の諸課題に関するリサーチや相談窓口の役割を担い、地域の価値をブラッシュアップする事業を提案・協同で実践、地域と地域、地域と人を繋ぐ「場」の創出を行っている。

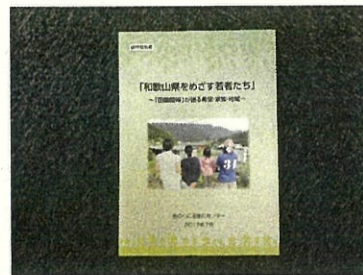
①きのくに活性化センター企画運営委員会など会議へ参画。

②きのくに活性化センター事業へ参画。

※事業で発行された冊子「和歌山県をめざす若者たち」では、和歌山大学南紀熊野サテライトで学んだ大学院受講生が移住者 IU ターン者に聞き取り調査を行った。



きのくに活性化センター総会



発行された冊子「和歌山県をめざす若者たち」

4-3 大学広報・情報提供関係

《入試広報物の配架や、学内広報室と連携した情報発信、わかりやすい広報媒体を作成した》

大学の入試情報や学生募集要項の他に、大学の雰囲気や学生生活が伝わる学生広報グループ情報誌やオープンキャンパス、主催講座チラシ等の配架や、学内広報室と連携して大学内のサークル紹介や活動の動画を配信できる「デジタルサイネージ」の設置を継続的に行った。南紀熊野サテライトホームページでは活動紹介を頻回に行った。年間 66 回情報更新、南紀熊野サテライトと大学の紀南地域の取り組みを分かりやすく紹介したパンフレットを配布。募集チラシにエントリーしやすい QR コードを付すなど学内外への情報発信強化を実施した。※QR コードを利用した受講申込は 21 件



教員免許状更新講習募集要領冊子の配布



本学広報室のデジタルサイネージ



申込メール QR コードを付けたチラシ

◆地域の企画（白浜商工祭）にて大学オープンキャンパス広報協力

開催日：平成29年7月1日（土）、2日（日） 会場：白浜会館（和歌山県西牟婁郡白浜町 1）

内容：白浜商工会青年部のご依頼を受けて白浜商工祭に協力。大学キャラクターわだにゃんが、二週間後の7月16日に開催が予定されていた和歌山大学オープンキャンパスのチラシを配布して参加していた子供達と触れ合った。和歌山大学への入学希望の地域の高校生も記念撮影をしていた。



白浜商工祭で地元の子供達と大学キャラクターわだにゃんが触れ合う様子

【5】本学防災対策本部分室の活動

5-1 台風12号対策（本学対策本部分室の活動）

《防災教育の企画の広報協力を実施》

平成 23 年東日本大震災・紀伊半島豪雨災害支援対策本部の分室として、南紀熊野サテライトが位置付けられ、その後、学内研究調査のプロジェクトの現地支援や共同研究、研究報告会の現地支援、広報活動等を実施している。地域での防災シオツアーやシンポジウムの広報支援や開催支援を実施。

◆本学災害科学研究所の教員のシンポジウム開催へ現地支援

開催名：第7回災害コミュニケーションシンポジウム ～災害時に必要な情報処理～

開催日：平成29年12月26日(火)9時50分～17時50分

主催：情報処理学会 セキュリティ心理学とトラスト(SPT)研究会、インターネットと運用技術(IOT)研究会、情報システムと社会環境(IS)研究会、グループウェアとネットワークサービス(GN)研究会、電子化知的財産・社会基盤(EIP)研究会

会場：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユー研修室4

内容：ISCRAM2017 関連研究紹介、ポスター紹介、ITDRR2017 参加報告 村山優子(津田塾大学)、基調講演「あひるさんボードで広がる防災/減災IoTシステム」秋山演亮(和歌山大/千葉工大)「災害情報の見える化の考察」松本 直人 (さくらインターネット研究所)「熊本地震における緊急支援助物資の問題をコミュニケーションから考える」畑山満則(京都大学防災研究所)和歌山大学学生セッション 吉野研究室(和歌山大学)

①マイクロブログと漫画表現を用いた防災知識の提供による防災意識向上の可能性

②避難時間を可視化する逃げ地図作成 Web システム

③まち歩き型の情報収集に対応した防災マップづくり一貫支援システム

パネルディスカッション「災害コミュニケーションの今後の課題」秋山,松本,畑山,吉野,村山
閉会、田辺市街地にて懇親会、このシンポジウムの現地支援を行った。



災害コミュニケーションシンポジウムの会場の様子(田辺市ビッグ・ユー)

◆学内災害科学研究センターのサイエンスカフェ「防災カフェ」の開催支援、広報支援を実施。

開催名：「ワダイの防災カフェ2017」 予約不要、参加無料

主催：和歌山大学災害科学教育研究センター・国土交通省近畿地方整備局/後援：和歌山県

会場：田辺市、那智勝浦町、広川町、和歌山市

内容：「ワダイの防災カフェ」は、日ごろから抱える自然災害や防災・減災に関する疑問・質問を、防災関連の専門家と一緒に飲み物を片手に気軽に語り合う場です。テーマは「防災教育」「防災計画」「避難支援システム」「救助ロボット」「災害事例」など多岐に渡り、和歌山大学や国土交通省近畿地方整備局、和歌山県などで働く災害関連の専門家が講師を務めた。防災関連の専門家と市民が飲み物を片手に気軽に語り合う場として、和歌山大学災害科学教育研究センター・国土交通省近畿地方整備局の主催で実施2年目。※田辺市、広川町は平成29年度に新設。

<各会場の開催日時>

田辺市会場：田辺市消防本部(田辺市新庄町46番地の119)

開催日：1回目 平成29年10月14日(土)14時00分～15時30分

2回目 平成29年11月11日(土)14時00分～15時30分、

3回目 平成29年12月2日(土)14時00分～15時30分

那智勝浦町会場：和歌山県土砂災害啓発センター（那智勝浦町市野々3027-6）

開催日：1回目 平成 29年 11月 11日（土）14時00分～15時30分

2回目 平成 29年 12月 9日（土）14時00分～15時30分

3回目 平成 30年 2月 3日（土）14時00分～15時30分



カフェで話題提供するシステム工学部吉野孝教授（田辺市消防本部にて）

◆ワダイの防災カフェ 2017

開催日：平成 29年 12月 2日（土）14時00分～15時30分

会場：田辺市消防本部（田辺市新庄町 46 番地の 119） 予約不要、参加無料

主催：和歌山大学災害科学教育研究センター

講師：吉野 孝（システム工学部 教授）和歌山大学生も当日実演に参加。

題名：「情報通信技術を用いた防災支援システム」

内容：避難や防災に役立つ最新技術の紹介。学生によるタブレットやスマホを使った実演も実施。

和歌山大学生が開発したアプリ「あかりマップ」を紹介。「あかりマップ」は、日常的に利用することで、自分の居住地域でも出先でも避難支援情報を受け取ることが可能な Android 携帯用のアプリ。地図画面上で、避難場所などの災害時に有用な情報を簡単に閲覧・登録・編集ができる。災害時に利用する機能を災害時にいきなり利用することは困難であるとし、日常利用可能なオフライン対応型災害時避難支援システムとして開発されたこのアプリの使い方を紹介した。

◆学内災害科学研究センター等の防災関連企画の広報支援、地域での情報拡散に協力

※下記チラシは、防災教育の関連で広報協力を実施した例（抜粋）



シンポジウム、体験型の企画、シオカフェなどの告知チラシ（企画の実施地：田辺市、那智勝浦町、串本町等）

【6】運営基盤の強化／視察受入等

6-1 大学間連携

《全国の大学教職員、コーディネーターを対象とした地域連携コーディネーターフォーラム》

和歌山大学では地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材育成、大学と地域の発展に向けた興論づくり、地域型サテライトへの着目の3点を目的に地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー、合宿型研修を毎年実施。昨年度に続き全国の国立大学、公立、私大など関係者が参加。大学と地域の連携に関する情報交流の場として実施している。

◆地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー

開催名：「第6回地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」

開催日：平成29年9月7日（木）～8日（金）

主催：和歌山大学、共催：福岡大学

会場：福岡大学 ヘリオスホール60周年記念館3階、地域交流サロン2階

対象：国公私立大学における地域連携担当コーディネーター及び担当教職員

内容：事前ワーク「コーディネーターのスキル分析シート」作成、セミナー開会挨拶（福岡大学、和歌山大学）アイスブレイク・グループワーク事例報告&パネルディスカッション。

パネリスト：福岡大学 山田雄三氏、法政大学 本野直子氏、高知大学 吉用武史氏

コメンテーター：（一社）国立大学協会専務理事・前和歌山大学長 山本 健慈氏

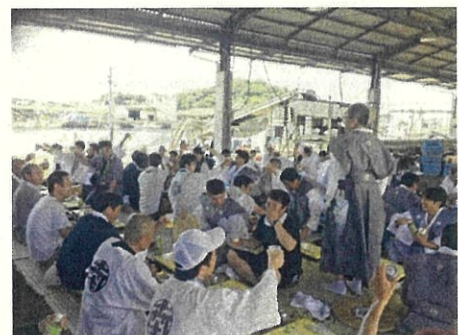
6-2 南紀熊野サテライト運営基盤の強化に向けて

《南紀熊野サテライト連携協議会「みらい戦略第三期計画」運用》

「地域の知の拠点」として授業開催の機会提供だけではなく、紀南地域をフィールドとした「課題解決・地域価値創造」に資する教育・研究・実践の発展を目的とした『みらい戦略第三期アクションプラン』を昨年度に策定した。プラン実現のために具体的な案や指標を企画委員等と検討し、初年度の振り返りとなった。また、地域での更なる基盤強化、情報連携を進めて活動を推進するために企画運営委員や南紀熊野観光塾生、受講生、地域住民と日常的に意見交換の機会を増やして取り組みに活かした。

◆田辺市との連携：特筆

平成28年6月1日田辺市役所市長室にて「田辺市と国立大学法人和歌山大学との連携協力に関する包括協定書締結式」に真砂市長、瀧学長が出席して田辺市と和歌山大学との連携協力に関する包括協定書締結式を取り交わした。既存の取り組みに加えて更なる連携を目指すとして、この田辺市との包括連携を機に、設置された「田辺市大学地域づくり事業」を活用して、学生が田辺市にて宿泊を伴う演習を実施するための助成事業が設置され2年目となった。本学からは、年2件申請し、活動支援を行った。毎年4月に経済学部新入生研修で、新入生約300人が田辺市街地を散策する研修を受入頂いている。



連携協力に関する包括協定書締結式の様子（田辺市役所） 田辺市で文化継承の取り組みを行う学生の様子

◆新宮市・東牟婁地域との連携：特筆

平成28年2月新宮市役所にて授業開設の記者会見を行い、新宮市にて新設された「熊野郷土学」も好評で、前期、後期ともに定員を超える受講者を得て、平成30年度も継続して開講することとなった。和歌山大学の授業を新規開講するにあたり、連携協議会の委員の皆様には大変なご尽力をいただき開設することができた。設置科目は、2科目延81名が受講。高校生の他、地域の県市町村の公務員、会社員、現役教員、歴史ガイド、シオガイド等が受講して職務に活かし地域で活躍している。今回の設置に至っては、東牟婁振興局や新宮市周辺の自治体、地域団体の協力を得ながら、地元金融機関である、新宮信用金庫様に、社会貢献の一環で会場を無償提供いただくことで実現した。

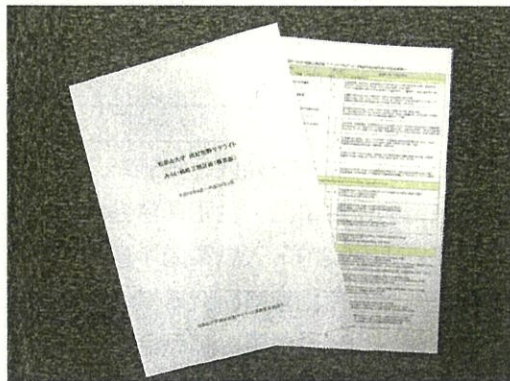


授業設置の記者会見の様子（新宮市役所仮庁舎） 新宮信用金庫で授業を受ける受講者

◆交流シートの活用

開催日：通年で運用

内容：昨年、和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会企画運営委員会にて策定された「みらい戦略第三期アクションプラン」から、南紀熊野サテライトが地域の知の拠点として、更に連携協議会企画委員等との連携を深め、日常的な情報交換を促進するための「交流シート」を設けた。会議毎の情報共有に活用することとした。（第三期アクションプランは、平成28年4月～平成34年3月末迄、6年間）各事業の重点項目、具体的取り組み例、成果指標例を設けて引き続き企画運営委員会にて年度の進捗管理を行うこととした。



策定された「みらい戦略第三期計画」



みらい戦略第三期アクションプランの概要

◆日常的な地域住民や教職員等との意見交換

開催日：通年で運用

内容：南紀熊野サテライト周辺自治体で活動を計画している本学の教職員方や他大学の教職員の方々、地域住民や受講者の方等と日常的に意見交換を実施。ニーズの聞き取りや地域課題について意見交換を行っている。意見交換から本学教員への事業相談や、学習機会の事業化をすることも多い。



観光学部木川先生、谷先生と白浜での演習、紀南での活動の意見交換の様子（田辺市ビッグ・ユー）

6-3 南紀熊野サテライト視察の受け入れ、研修参加

《他大学の視察の受入や学内教職員の視察受入を実施》

他大学からの視察受け入れや研修会、シンポジウムに参加。学外の実践者との意見交換を実施。

他大学からの視察、意見交換の依頼受入は、2件（関西学院大学、三重大学）

他大学へ転出した元本学教員より白浜での学生演習の協力依頼1件（龍谷大学松浦先生）

◆関西学院大学の教員と意見交換

日時：平成29年9月12日（水）午前11時～14時 場所：和歌山大学南紀熊野サテライト

来訪：関西学院大学 照本教授1名（元和歌山大学防災センター教員）

内容：紀南地域での観光地防災の現状についての意見交換。

別日、白浜町役場や観光関連施設でのヒアリングに同行。（5年前白良浜からの防災訓練のその後）

◆三重大学の視察対応

日時：平成30年3月8日（木）午後14時 場所：和歌山大学南紀熊野サテライト

来訪：三重大学 教育学部・大学院地域イノベーション学研究科 藤田達生教授1名

内容：サテライトを三重県内に3拠点新設したため、南紀熊野サテライトの活動全般について聞き取りと開設経緯や受講属性、所在することによる効果について意見交換に来訪。近年の傾向を説明。連携協議会を通じた市町村との関係や社会人受講者確保になど運営方法、紀伊半島の地域創生について意見交換を行った。

6-4 会議運営、その他 ～和歌山大学の最前線拠点として～

《各種の会議運営や、和歌山大学・南紀熊野サテライトの情報発信を実施》

①オフィス会議、南紀熊野サテライト連携協議会総会、幹事会、企画運営会議の会議運営を実施。

②和歌山大学の全学の最前線拠点&報拠点として、大学案内・入試案内・各種大学事業、地域情報提供を実施するとともに南紀熊野地域の「知の拠点」として、教育研究事業への参画・連携、情報発信等の諸活動を実施。教育研究事業の地域での成果報告や活動成果の情報発信を実施。

③和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会みらい戦略第三期計画アクションプランを基に事業実施。

以上

あとかき

本年度もサテライト事業の展開、企画遂行にあたり、地域連携事業が多岐にわたり、皆さまのご支援のもとで様々な成果に繋がりました。これらは大学やサテライトだけで達成できるものではなく、受講生の皆様、地域の皆様、関係者の皆様の手厚い支えがあって実施されたものです。皆様に厚く御礼を申し上げます。今後も「地域と融合する大学」の実践に向けて、様々な取り組みを実施いたします。

和歌山大学南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2017年度
2018年(平成30年)3月発行

国立大学法人 和歌山大学 南紀熊野サテライト
〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町3353-9-102
和歌山県立情報交流センターBig.u内
TEL : 0739-23-3977 FAX : 3978
E-mail : nankuma@center.wakayama-u.ac.jp
HP : <http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/>

H29年度 広報資料
(募集要項、チラシ、パンフレット)

平成29年4月～平成30年3月配布分

和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

Open Seminar 開催

3月5日(日) 14:30~16:00

開場(受付開始)14:15
場内情報交流センター Big-U 研修室4

■記念講演■
学部開放授業「地域暮らしの健康学D ~よく生きるための「心のあり方」~」の授業より
アドラーと森田の心理学
生きる力を強めるアドラーと森田の心理学
講師：中島 俊介氏 北九州州立大学 名誉教授 博士(1998)

■受講生募集説明会■
田辺市と新宮市で大学の授業を受講できます！

申込方法・問い合わせ先

申込期間 平成29年3月4日(土)17:00

お申し込み先 FAX: 0739-23-3978 締切: 3月4日(土)17:00

お名前	年齢	性別: 男・女	電話番号
ご住所			FAX番号
所属			電子メール

和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

Open Seminar 開催

3月11日(土) 14:00~16:00

開場(受付開始)13:30~

会場 新宮信用金庫 5階会議室

■記念講演■
「熊野熊土学からの地域復興～」の授業より
熊野を中心に紀伊半島を考えてみよう! Edit your city!

■受講生募集説明会■
熊野地域の復興形を学ぶ

申込方法・問い合わせ先

申込期間 平成29年3月10日(金)17:00

お申し込み先 FAX: 0739-23-3978 締切: 3月10日(金)17:00

お名前	年齢	性別: 男・女	電話番号
ご住所			FAX番号
所属			電子メール

和歌山大学 南紀熊野サテライト 受講生募集要項

平成29年度 前期

心理学
「地域暮らしの健康学D」
熊野の産業
「熊野熊土学A」

募集しながら学べる! 社会人受講生

satellite

配布場所：ビッグユー、市役所町役場（田辺市、新宮市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町）、図書館、公民館、田辺商工会議所、和歌山大学、和歌山県、紀陽銀行、地域拠点他

和歌山大学 南紀熊野サテライト主催
GEO CAFE vol.11 第11回 ジオカフェ時鐘

高校生 only!

ジオパークの先へ

～食卓から考える南紀熊野～

私たちが普段食べる食べものはどこからやって来たのでしょうか？
また、その調理法は？それは郷土料理？それとも？
普段の食卓から南紀熊野について一緒に考えてみましょう。

中串 孝志 × 新名 阿津子
NAKAKUSHI Takashi × NINA Atsuko

平成29年 7月8日(土) 10:30～12:00(予定)

会場：新宮信用金庫 5階会議室
〒546-0011 和歌山県新宮市南紀町3-1-14
TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978

申込方法・問い合わせ先 ※事前お申込にご協力ください

申込先：氏名、連絡先等の必要事項を下記の申込用紙へ記入しFAXにてお申込ください。
申込期限：平成29年7月7日(金) ※お申し込みがある場合は必ずお申し込みの旨をお知らせください。
申込先：和歌山大学南紀熊野サテライト 〒546-0011 和歌山県新宮市南紀町3-1-14 和歌山県立総合文化センター 5階4号内102号
TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978 受付メール：nanakijapancenter@waka-yam-u.ac.jp

ジオカフェ vol.10 7月8日 参加申し込み書 QRコードで簡単申込み！

お名前:	年 齢:	性別:	男・女	電話番号:
ご住所:				
所 属:	電子メール:	FAX番号:		

主催：和歌山大学入道・和歌山大学 南紀熊野サテライト

サイエンスカフェ（ジオカフェ）高校生

和歌山大学 南紀熊野サテライト主催
GEO CAFE vol.11 第11回 ジオカフェ時鐘

1ドリンク付 先着15名 500円

ジオパークの先へ

～南紀熊野の未来図を描く～

10年後、100年後、1000年後100万年後の南紀熊野がどうなっていく地域であってほしいと願いますか？南紀熊野の過去・現在・未来について、のんびりと時間旅行しながら一緒に考えてみましょう。

中串 孝志 × 新名 阿津子
NAKAKUSHI Takashi × NINA Atsuko

平成29年 7月8日(土) 18:00～19:30(予定)

会場：珈琲房西屋 和歌山店5階303号室
〒546-0011 和歌山県和歌山市南紀町3-1-14 和歌山県立総合文化センター 5階4号内102号
TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978 受付メール：nanakijapancenter@waka-yam-u.ac.jp

申込方法・問い合わせ先 ※事前お申込にご協力ください

申込先：氏名、連絡先等の必要事項を下記の申込用紙へ記入しFAXにてお申込ください。
申込期限：平成29年7月7日(金) ※お申し込みがある場合は必ずお申し込みの旨をお知らせください。
申込先：和歌山大学南紀熊野サテライト 〒546-0011 和歌山県新宮市南紀町3-1-14 和歌山県立総合文化センター 5階4号内102号
TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978 受付メール：nanakijapancenter@waka-yam-u.ac.jp

ジオカフェ vol.10 7月8日 参加申し込み書 QRコードで簡単申込み！

お名前:	年 齢:	性別:	男・女	電話番号:
ご住所:				
所 属:	電子メール:	FAX番号:		

主催：和歌山大学入道・和歌山大学 南紀熊野サテライト

サイエンスカフェ（ジオカフェ）社会人

和歌山大学 南紀熊野サテライト

第二回

アドラーカフェII

アドラーと森田の心理学をヒントによく生きるための「心のあり方」について一緒に考えませんか？
最強の心のありかた…「あるがまま」とは

北九州市立大学 名誉教授 博士(学術) 臨床心理士 エッセイスト
中島俊介先生と語ろう!
ナビゲーター 藤永博 先生

小・中・高校生 参加無料! 先着20名 500円

7月15日(土) 17:45～19:15(予定)

会場：ビッグコングレガーション2 和歌山県山田市新田町 3353-9
※会場内にカフェとネットサービスあり 利用料として500円いただきます。

申込方法・問い合わせ先 ※事前お申込にご協力ください

申込先：氏名、連絡先等の必要事項を下記の申込用紙へ記入しFAXにてお申込ください。
申込期限：平成29年7月14日(金)17:00
申込先：和歌山大学南紀熊野サテライト 〒546-0011 和歌山県新宮市南紀町3353-9 和歌山県立総合文化センター 5階4号内102号
TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978 受付メール：nanakijapancenter@waka-yam-u.ac.jp

アドラーカフェ 7月15日(土)開催 参加申し込み書

お名前:	年 齢:	性別:	男・女	電話番号:
ご住所:				
所 属:	電子メール:	FAX番号:		

主催：和歌山大学入道・和歌山大学 南紀熊野サテライト

アドラーカフェII

和歌山大学 南紀熊野サテライト

NANKI-KUMANO KANKOJUKU 南紀熊野観光塾 第5期

平成30年 2月20日(水) 13:10～14:10 (13:00開場)

会場：南紀の瀬温泉たんぽろ館

入場無料 先着40名 基調講演

地域ならではの商品をつくる理由とは？

内閣府・国土交通省・農林水産省認定 観光カリスマ・南紀熊野観光塾長 山田桂一郎氏
Katsuhiko Yamada

山田桂一郎氏プロフィール
2005年観光カリスマの称号・賞状を受賞。観光産業の発展に貢献し、観光客の増加、地域の活性化に尽力。観光産業の発展に貢献し、観光客の増加、地域の活性化に尽力。観光産業の発展に貢献し、観光客の増加、地域の活性化に尽力。

申込方法・問い合わせ先 ※事前お申込にご協力ください

申込先：氏名、連絡先等の必要事項を下記の申込用紙へ記入しFAXにてお申込ください。
申込期限：平成30年2月17日(土) ※お申し込みがある場合は必ずお申し込みの旨をお知らせください。
申込先：和歌山大学南紀熊野サテライト 〒546-0011 和歌山県新宮市南紀町3353-9 和歌山県立総合文化センター 5階4号内102号
TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978 受付メール：nanakijapancenter@waka-yam-u.ac.jp

お申し込み書 FAX: 0739-23-3978 締切: 2月17日(土)17:00

お名前:	年 齢:	性別:	男・女	電話番号:
ご住所:				
所 属:	電子メール:	FAX番号:		

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 共催：和歌山大学観光部 後援：和歌山県

南紀熊野観光塾 基調講演（開催地：古座川町）

〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町 3353-9
和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー 1F
■京利バス：南紀熊野線 BigJ 着駅後、山内バス
大新方面から新庄駅より約 30 分
■自家用車：南紀熊野線
新庄より、国道 42 号南側方面
北上より国道 42 号南側方面
■自家用車

定員募集は 15 名様
応募者が多数の場合は抽選となります。ご了承ください。
1 募集対象：全ての郡に参加可能な方、高校生以上の方
2 費用：交通費、宿泊費、昼食費、食費等は各自負担です。
3 参加費用：学費に代用となる参加費用として実費 10,000 円を
初回徴収いたします。基礎コース終了後、2 月に塾生コースを開催
する予定です。興味のある方は事務局までお問い合わせください。
4 記載の内容は変更することもあります。予めご了承ください。

平成 29 年度 南紀熊野観光塾【基礎コース】参加申込用紙

基礎コース専用申込用紙(11/28(火)17:00 締切)※必要事項をご記入の上、FAX または記載内容をメールにてお申込みください。

フリマ
お名前： 年齢： _____

住所： _____ 性別： 男・女

電話番号： _____

電子メール： _____ 所属： _____

※この申込書の情報は関係の無い限り以外では使用しません。

お問い合わせ先
和歌山大学南紀熊野サテライト
TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978
メール：nankuma@center.wakayama-u.ac.jp
■受付時間：10:00～17:00(日・月・祝祭日等休み) http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/
〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町 3353-9 和歌山県立情報交流センター Big・ユー 102 号室

NANKI-KUMANO-KANKOJUKU
南紀熊野観光塾 vol.5
～いま、求められる観光中核人材を育てる。次世代の地域経営～

平成 29 年 秋開塾

南紀熊野観光塾 塾長：山田 桂一郎

なぜ、地域振興に観光が必要なのか

第 5 期生 募集【基礎コース】15 名

11/30(木) 12/1(金)
11/30(木) 12/1(金)

和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー ネットワーク実習室
和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー 研修室 2 (ワールドカフェの併設研修室)

開塾日：基礎コース 平成 29 年
11 月 30 日(木)13:00～18:00
12 月 1 日(金)10:00～16:30

申込締切日：平成 29 年 11 月 28 日(火)17:00*

参加条件：全ての郡に参加する意欲のある方
高校生以上の方(学歴等不問)

※次の方々にお勧めの塾です。
観光事業者 観光振興の担い手 地方公共団体 ジオパーク担当者
学生起業家 観光案内者 まちづくり担当者 旅館経営者 地域経済団体 地域住民の方
職工関係者 インストラクター 地域づくり担当者 ガイド、語り部 観光に関心のある大学生・高校生

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 共催：和歌山大学観光学部 後援：和歌山県

南紀熊野観光塾 第 5 期
「なぜ、地域振興に観光が必要なのか」

11/30(木) 【基礎コース】1日目 13:00～18:00
和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー ネットワーク実習室

12/1(金) 【基礎コース】2日目 10:00～16:30
和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー 研修室 2 (ワールドカフェの併設研修室)

11:00～11:30 開塾挨拶、趣意説明
出席名簿(和歌山大学南紀熊野サテライト・発行)

13:10～14:10 「選ばれ続ける地域とは？」
～なぜ、地域振興に観光が必要なのか～
山田桂一郎 塾長

14:15～15:25 「稼ぐためのツアーと仕組みづくり」
～香川の片岡からの挑戦～
片岡 隆夫 代表取締役社長 株式会社片岡

15:35～16:45 「あるもの活かし」で地域力発信！
～いばまめられるのは「地域を賑わす力」～
西谷 隆彦氏 西谷 隆彦氏

16:50～17:40 議論の整理
コーディネーター：竹林 浩志(和歌山大学観光学部観光学系 教授)
講師：山田 桂一郎 塾長、西谷 隆彦 氏、出口 誠 氏

17:45～18:00 「地域ならではの素材の見つけ方、みがき方」
山田桂一郎 塾長

19:00～21:00 夕食交流会

11:00～11:30 開塾挨拶、趣意説明
出席名簿(和歌山大学南紀熊野サテライト・発行)

10:00～11:00 「脱B級志向で地域振興！」
～補助金申請、老化学習コピエ集、からの決別が地域を強くする～
山田桂一郎 塾長

11:10～12:00 ①地域振興を回すカベをどう崩すか
Q&STPにより売れる企画を！
講師：橋山 謙助、西谷 隆彦、山田 桂一郎 塾長

13:00～14:00 ②「南紀熊野の価値をどう高めるか」
～シオの視点から見えてくるもの～ 講師：出口 誠 氏

14:00～14:30 個人ワーク
議論の整理

14:30～15:10 参加者と講師の意見交換タイム
講師：山田 桂一郎 塾長、橋山 謙助、西谷 隆彦、出口 誠 氏

15:30～16:15 「感嘆地を観光地に！」
～持続可能な地域経営のために～ 山田桂一郎 塾長

16:30～17:00 閉塾式、基礎コース修了証書授与、記念撮影

「南紀熊野観光塾」塾長挨拶の目的

「南紀熊野観光塾」塾長挨拶の目的

「南紀熊野観光塾」塾長挨拶

「南紀熊野観光塾」講師紹介

(開催地：田辺市)
南紀熊野観光塾第 5 期パンフレット(塾生講習)

会場アクセス
 南紀月野温泉 ばたん荘
 和歌山県東牟婁郡古座川町月野 591-1
 車で行く：月野温泉 国道7号 古座川ICより約10分
 公共交通機関：和歌山線 古座川ICより、国道42号南紀月野温泉内交差点 西武バスよりタクシーで約10分、南紀観光バス 月野温泉内交差点よりタクシーで約10分、南紀観光バス 月野温泉内交差点より約120分
 ■南紀熊野観光



お泊まり先 ■旅人旅と観光について
 塾生募集は15名様定員
 ①募集対象：観光地を受けたことのある方（講師・塾生から紹介された方でもよい）
 ②地域での活動：物産展、体験型、食育等の場合は自己負担です。
 ③会場費用：テキスト代費用など会場費として授業料1000円を別途徴収いたします。
 ④配車：内容は変更することもあります。予めご了承ください。

平成29年度 南紀熊野観光塾【塾生コース】 参加申込用紙
 申込用紙とエントリー用紙の計2枚を締切日までにメール、FAXまたは郵便でお送りください。
 用紙はピクチャーの南紀熊野観光サテライト事務局に配布しています。また、HPからダウンロードいただけます。
www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/
 南紀熊野サテライト

塾生コース専用申込用紙
 平成30年2月16日(金)17:00締切(必着)

お問い合わせ先
和歌山大学南紀熊野サテライト
 TEL.0739-23-3977 FAX.0739-23-3978
 メール：nankuma@center.wakayama-u.ac.jp
 最寄り時間：10:00～17:00(月・月・祝祭日等休校)
<http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/>
 〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町3353-9
 和歌山県立情報交流センター 南・101 102号室
 車で行く：月野温泉 国道7号、月野温泉、月野温泉、大塚方面から新大塚より約2時間30分
 公共交通機関：和歌山線 古座川ICより、国道42号南紀月野温泉内交差点より約120分、南紀観光バス 月野温泉内交差点より約120分
 ■南紀熊野観光

NANKI-KUMANO-KANKOJUKU
南紀熊野観光塾 vol.5
 ～いま、求められる観光中核人材を考える。次世代の地域経営～

平成29年度開塾


南紀熊野観光塾 塾長：山田 桂一郎

地域ならではの商品の作り方

第5期生 募集【塾生講習】15名

2/20
Tuesday
火曜日

2/21
Wednesday
水曜日

南紀月野温泉 ばたん荘
 〒649-4106 和歌山県東牟婁郡古座川町月野 581-1

塾生講習 平成30年	2月20日(火) 13:00～18:10
	2月21日(水) 9:00～16:30
申込締切日	平成30年2月16日(金)17:00*
参加条件	全ての日に参加する意欲のある方 高校生以上の方(学歴等不問)

※次の方々に志願の意です。

観光事業者	観光関係者(学生)	地方公共団体	ジャーナリスト
観光関係者	観光関係者	まちづくり担当者	観光関係者
観光関係者	観光関係者	観光関係者	観光関係者

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 共催：和歌山大学観光学部 後援：和歌山県

南紀熊野観光塾 第5期 塾生講習

「地域ならではの商品の作り方」

2/20 Tuesday 火曜日 1日目 13:00～18:10
 会場：南紀月野温泉 ばたん荘(15分前集合 12時50分)

2/21 Wednesday 水曜日 2日目 9:30～16:00
 会場：南紀月野温泉 ばたん荘(15分前集合 12時50分)

13:00-13:10 開塾式

13:10-14:10 塾長講演：山田桂一郎 塾長
「地域ならではの商品をつくる理由とは」

14:20-15:30 講師講演：株式会社 横山 山田 講師
「地域ならではの商品をつくる」

15:30-16:40 団体、個人、各々分組で発表・講師講演
 山田 講師

16:40-17:00 質疑応答

17:10-17:20 個人ワーク

17:30-18:10 塾長講演：山田桂一郎 塾長
「選ばれ続ける商品をつくるには」

19:00-21:00 夕食交流会

9:30-10:30 塾長講演：山田桂一郎 塾長
「地域経営における戦略と戦術」

10:30-11:30 講師講演：古座川町 講師
「地域経営を地産ブランドに」 (シブエ地産物の再評価)

11:30-12:00 セッション講演：前井 講師、山田 講師
「地域経営をブランドに」 企画のSTPのありか考える

12:00-13:00 昼食とグループワーク

13:00-14:00 各々の企業事例への発表と話し合い
 講師がセッション形式で各々の発表を聴きます。

14:10-14:40 企業発表の発表

14:50-15:30 塾長講演：山田桂一郎 塾長
「地域経営における戦略と戦術とは」

15:30-16:00 閉塾式

(開催地：古座川町)

南紀熊野観光塾エントリーシート

一般社団法人関西地質調査業協会 創立60周年記念事業

防災市民フォーラム inわかやま

～災害に向き合い、共に防災を学び、考えよう～

日程 平成29年9月30日(土) 12:00~16:30

会場 和歌山大学 北3号棟 (システム工学部棟1階101号室)

開催スケジュール(プログラム)

12:00	開会式	12:00~16:00	講演会(1) 防災と地域づくり
12:55	講演会(2) 防災と地域づくり		
13:00~15:00	防災体験(1) 避難訓練		
15:15~16:25	防災体験(2) 避難訓練	16:25	閉会式

鉄道乗車中の津波避難と地域との訓練

2017年11月4日(土) 13:00~17:00

和歌山県立総合文化センター プラザホープ・大ホール

講演者 三津鉄道の復旧・復興の取り組み

講演者 三津鉄道の復旧・復興の取り組み

歴史から学ぶ防災2017

命と文化遺産を守る

2月24日(土)

2月25日(日)

東牟婁総合庁舎 3階大会議室

北山村民会館

和歌山県立総合文化センター 073-436-8670

紀州地域と西国順礼

2017年11月7日(火)~12月15日(金)

和歌山大学紀州歴史文化研究所

和歌山大学紀州歴史文化研究所

移民の仕事と暮らし

アメリカ、カナダ、ブラジル、オーストラリア

和歌山大学紀州歴史文化研究所

文化庁

和歌山大学 事前予約不要

「子育て支援員研修」説明会

和歌山大学の社会貢献・生涯学習事業として取組みます。

和歌山県立情報交流センタービッグユー(和歌山県和歌山市) 5月12日(金) 14:00~15:30

和歌山大学松下会館(和歌山県和歌山市) 5月16日(火) 10:00~11:30

お問い合わせ先

和歌山大学 子育て支援員研修担当 073-421-1111

http://www.life.wakayama-u.ac.jp/

サイバー探偵団

第1回「シニア塾」

初めてでも安心! いきなり使える! モバイルツール

11月15日(水) 14:00~15:00

和歌山大学 紀州歴史文化研究所

TEL/FAX 0739-26-7100

第1回「シニア塾」参加申込書

氏名 _____

住所 _____

TEL 携帯用 _____

創業セミナー

創業支援情報コーナー

和歌山大学システム工学部

和歌山県立総合文化センター

和歌山大学紀州歴史文化研究所

新宮市 婚活推進プロジェクト

あなたの出会いを応援します!

婚活イベント

10月1日(日) 新宮を撮る!

午前9時30分集合

午後4時30分解散

場所:新宮市内

新宮食材の豪華料理

